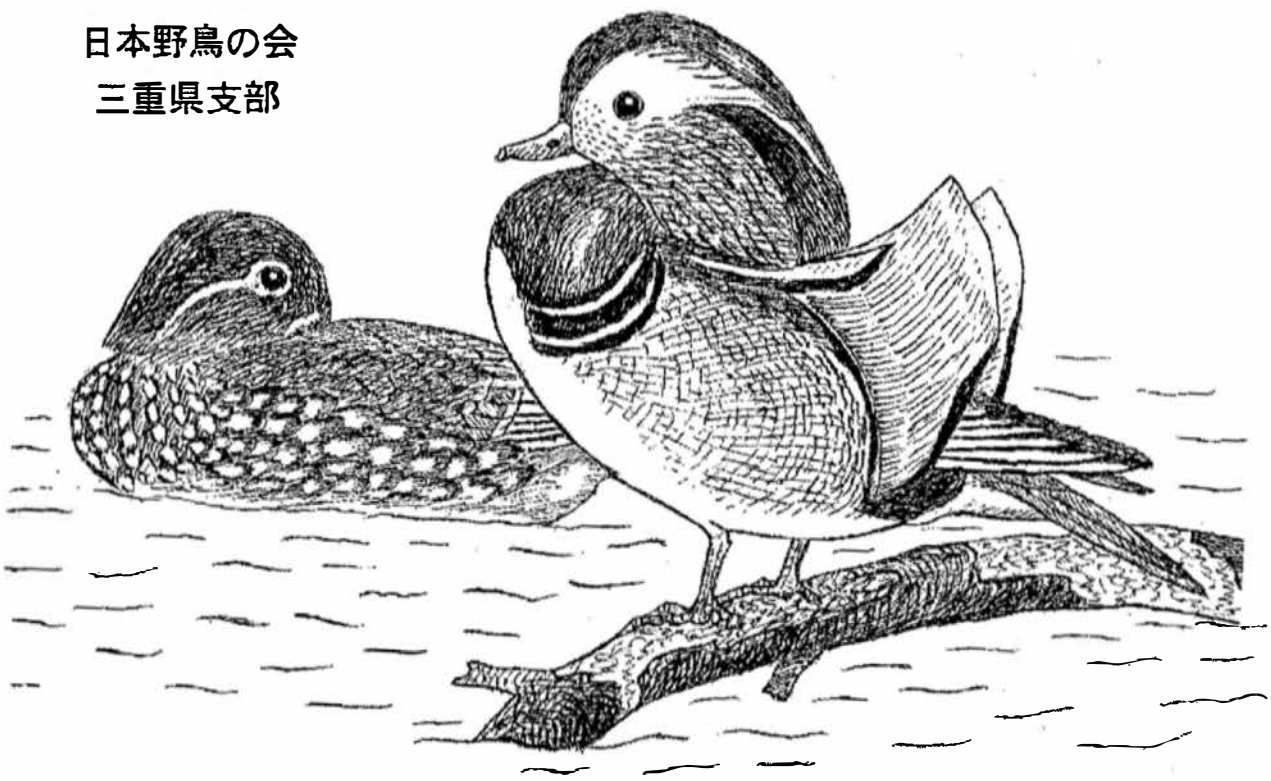
# しまだより

第46号

特集： 橋本太郎氏

2005年3月

日本野鳥の会
三重県支部



## 橋本太郎先生

市川雄二（四日市市）

今年は酉年です。「とり」を広義に解釈して野鳥にとってもいい年でありたいと願うところです。

新年早々編集部の皆さんと伊丹市博物館を訪問する機会を得ました。この博物館には、故橋本太郎先生の野鳥の剥製が展示してあると聞いたからです。早速展示コーナーを見学しました。先生の剥製は常設展示になっていて、水田や湿地の環境にマッチした野鳥の表情の豊かさに見とれました。

実は今回、編集部の皆さんが、野鳥研究の大先輩である故橋本太郎先生を偲び、先生の特集を企画することになりました。ご子息の理市先生に快諾をいただき、昨年暮れ、お宅へお伺いしました。理市先生から生前の先生が歩んだ人生の思い出を語っていただき、遺品の数々を見せていただきました。先生は言うまでもなく、自然と共に歩んだ野鳥研究家で、昨年91年間の人生を全うした方です。先生の功績は多く、自作の剥製は特に有名です。また、フィールドノートに書かれた野鳥観察の記録は詳しく克明でした。著書も多く、野鳥以外にも、魚類、昆虫類、は虫類を中心に、飼育、観察、描画など数々の作品が残されていました。私たちが野鳥や自然に対する見方・考え方や記録の大切さを教えてくれたように思います。

私が先生の名前を知ったのは、高校の時、本屋さんで購入した「動物の剥製の方法」著者橋本太郎氏の本でした。当時我が家のガラスに衝突してうずくまった野鳥をよく見受けました。大抵は水を飲ますとすぐ回復して飛んでいきましたが、時には落鳥死があり、あまりの美しさに埋めるのが惜しく、仮標本を試みようと思ったのです。この本はそのときの参考になりました。

また、教職についてまもなく、確か先生が五十鈴中学校在職の時、理科の研究会で「スズメの生態について」の研究発表をされたことが印象に残っています。

会員の皆さんのなかにも、先生との関わりのなかで数々の思い出があることでしょう。

この特集から先生の生前を偲び、功績を称えると共に、私たちも先生の業績に刺激され、さらに野鳥を見る目を養いたいと思います。

## 目　　次

巻頭エッセイ ----------2
特集：橋本太郎氏
特集にあたって ----------3
橋本太郎氏の生涯と仕事 ----------3
晩年の橋本先生に学んだ日々 ----------5
伊丹市立博物館に橋本太郎氏の足跡を訪ねて ----------7
博物館の寄り道 ----------9
橋本太郎氏の残した鳥類記録 ----------9
橋本太郎　発行図書一覧 ----------11
三重県立博物館の橋本コレクションを訪ねて ----------12
三重県立博物館所蔵 橋本太郎氏剥製一覧 ----------13
橋本太郎先生を偲んで ----------16
今日も鳥日和 ----------17
アートギャラリー ----------18
特別寄稿
渥美半島「越戸大山ヘリコプター離着陸訓練場」問題について ----------20
会員のページ
船橋三番瀬と谷津干潟へ ----------21
消えたコクガンに思う ----------22
七人山の落ち羽拾いに参加して ----------23
調査研究のページ
三重県の野鳥の未報告記録　その１ ----23
野鳥情報 ----------24
支部活動のページ
支部活動の記録 ----------25
おしらせ ----------25
保護部より ----------26
第１２回野鳥密猟問題シンポジウムin三重 ----------27
三重県南勢地区における密猟パトロール ----------28
木曽岬干拓フォーラムの報告 ----------29
探鳥会報告 ----------29
編集後記 ----------32

## 表紙の言葉

今回は橋本太郎氏のスケッチからオシドリを選びました。　（編集部）

## 特集：　橋本太郎氏

### 特集にあたって

編集部

今回の「しろちどり」は2004年6月26日91才で亡くなられた橋本太郎氏の特集です。橋本太郎氏は日本における鳥類剥製標本制作の第一人者であり、また地元伊勢で長らく野鳥の研究を続けて来た方です。支部会員の中には親交を深めていた方も少なからずいると思います。しかし、彼の仕事は剥製標本と自費出版という形をとっているため、あまり多くの人に知られることがありません。そこで編集部では特集を組みました。アートギャラリーにも氏のスケッチブックの一部を掲載します。支部会員の皆さんに橋本太郎氏の仕事と人柄の一部でも知っていただけたらと考えています。

●●●●●●●●●●●●●●●●●

### 橋本太郎氏の生涯と仕事

平井正志　（安芸郡安濃町）

橋本太郎氏は三重県度会郡四郷村朝熊（現伊勢市朝熊町）の橋本家12代目の長男として1912年に生まれた。10人兄弟であった。家は屋号を「たばこ屋」といい、商売もしていたが、主には山林と農業で生計をたてていた。当然家を継ぐことを期待され、三重県立農林学校（現在の久居農林高校）に進んだ。しかし、動物への興味は子供の頃から強く、捨てがたかったようで、卒業後、一時家業に就いた後、三重高等農林高校（現在の三重大学生物資源学部）昆虫学教室（大町文衛教授）の助手となった。家からは帰れ、帰れという声が強かったという。しかし、結局は家業を継がず、次男が家業を継いだという。

度会郡小俣町明野の橋爪家の長女てると結婚の後、津市立高等女学校に嘱託教員として勤め、てるの実家の隣の倉庫を借り、明野から通った。戦争末期であり、教員の給料は安く、月給だけでは家族7人がとても食べてゆけない状況だったという。その中で鳥類の調査と採集が始まった。採集に使った猟銃は妹から借金して中古品を手に入れた。動物には以前から興味があったのだが、なぜ鳥に興味をもったのかはよくわからない。「俺はタカにほれたのだ」といっていたのを長男の橋本理市氏が聞いている。タカの話があればどこへでも出かけたようだ。また、チョウゲンボウなどのタカを飼ったこともあるという。剥製の技法は京都まで出向いて坂本三六氏に教えてもらったが、その後独自で改良を重ねたという。

終戦の後、伊勢に帰り、豊浜中学校を始めに、伊勢市内の中学校の理科教師を勤めた。しかし、貧乏は相変わらずで月給を前借りしたり、共済組合の世話になっていたようだ。剥製の技術は北隆館から2冊の本となって出版されている。理市氏も剥製を太郎氏の技術を受け継ぎ、剥製を作ったが、作った剥製を太郎氏に見せても、氏はなかなかうんといわなかったという。亡くなる2，3年前になってやっと、「これでえーやろ」と言ってくれたという。剥製の技法についても、また鳥の研究についても後継者を育てた

かったのは十分に考えられる。しかし、太郎氏について学んでいた倉田篤氏（注参照）が紀州の海で事故死してしまい。後継者を育てる機会を逸したようだ。剥製の技法については理市氏が受け継いでいる。

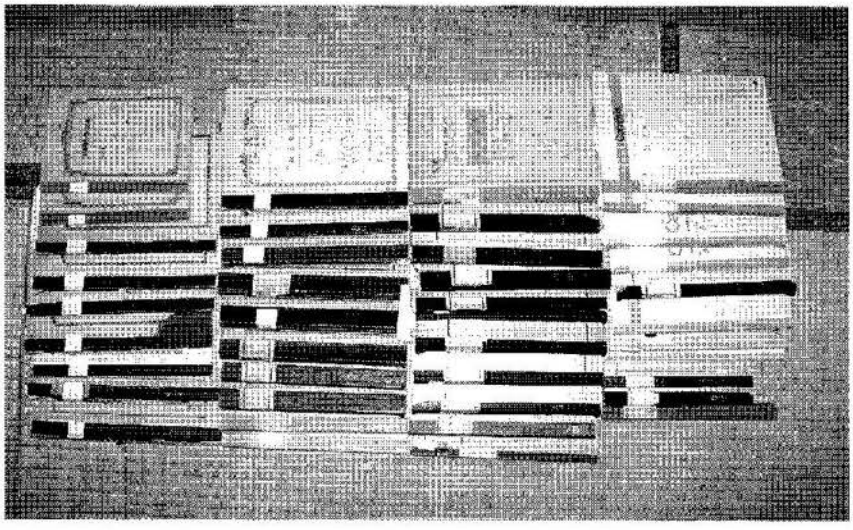
今では考えられないことであるが、その時代の鳥類研究家がほとんどそうであったように、彼も銃で鳥を撃ち、剥製にした。彼は農林省から1年中鳥を捕る許可（学術研究用鳥獣捕獲許可証）を得ていた。教師として中学校へ行くときも銃を背にしょって自転車にのっていったという。行きかえりに機会があれば、鳥を撃っていたようだ。周囲の人もそれを知っていたし、それがどうのといわれる時代ではなかった。また当時は自然破壊も急速ではなく、標本のために採集する程度はほとんど問題にならなかったであろう。食べるためではなく、剥製のために鳥を撃つのはかなり技術がいったようだ。散弾がたくさん当たれば皮膚はやぶれるし、骨が砕ける。それを補修しながら、剥製をつくるのは容易ではない。わざと的を少しはずして撃って、散弾がほんの少しだけ当たった獲物を得ていたようだ。また伊勢にあった狩猟鳥獣仲買の伊藤鳥獣店からも入荷した狩猟鳥を入手した。鳥についてはほとんど独学であったようだ。三重農林（三重大学）の山下善平助教授（昆虫学）とはよく話していたようだ。太郎氏は動物一般に興味を持ち続け、シートンの動物記、ファーブルの昆虫記に大きな影響を受けた。晩年はスズメの研究に打ち込み、「三重生物」に「農村地帯のスズメ群」を5回にわたって発表する（1964年から1970年）と共に同じ題名の著書を自費出版している。

伊勢市朝熊町にある彼の家の近くには当時広大なヨシ原が続いていた。湿田があったり、田が放棄されるとヨシが入り込み、やがてヨシ原となる。彼はここで多くの鳥を採集している。クイナやヒクイナは普通で、ツルクイナまで採集している。しかし、ゴルフ場ができ、祭り博の会場となり、今ではすっかり失われてしまった。太郎氏もその後標本のために野鳥を採集することがもはや許されなくなると感じていたようだ。猟銃による採集は1970年に終わる。

日本画家の橋本鳴泉と彫刻家の橋本平八は彼の叔父にあたるという。絵や彫刻にも興味があったようで、橋本家に残されたスケッチブックにはみごとなスケッチがある。スケッチにはそれぞれの寸法が記され、これは剥製を作るための資料となっている（バードギャラリー参照）。

また鳥もいろいろ飼育したという。シラサギ類、カワセミ、カラス、スズメなどを飼った。とりわけシラサギ類はよく飼ったようである。餌の魚をとるのは理市氏の役割であったようだ。彼はシマヘビを飼っていた。シマヘビの黒変個体いわゆるカラスヘビで、26年も飼った。こんな記録はどこにもあるまい。死んだ後は当然剥製にされ、今も橋本家に保管されている。

彼は観察の記録を几帳面に記録している。40冊のノートがそれをしるしている。その他にスズメに関するノートが3冊ある。膨大なノートは多くのデータを包んだまま、いまだに整理されず、眠っている。まとめると多くの新しい発見があろう。これらのノートには記録のみでなく、随筆のような文章も、家族のことも記されている。氏の人柄がしのばれる。



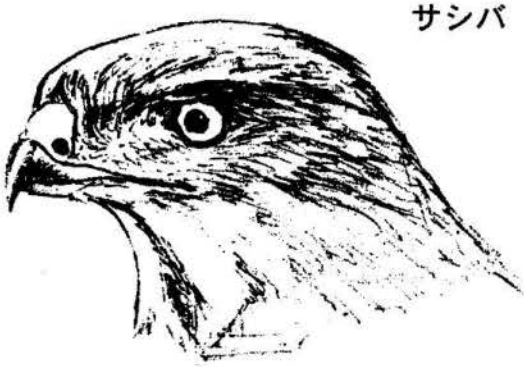
彼は残念ながら、鳥類学の正規の教育を受けていなかった。当時の大多数の人がそう

であるように大学へ進学することなど、夢のまた夢であったであろう。しかし、彼が大学で鳥類学の教育を受けておれば、その情熱と技量からして当然日本の鳥類学の第一人者としての地位を得ただろうことは想像にかたくない。

この文は橋本太郎氏の御子息橋本理市氏からうかがった話と著書の著述をもとに平井がまとめ、私見を加えたものである。

注：　倉田　篤：　津高等学校を卒業後、教職に就く。そのかたわら、熊野灘沿岸、大台、大杉谷、鈴鹿山脈の鳥類を調査した。不幸にも1970年4月に紀伊長島沖で遭難死した。

サシバ



年譜（主なもののみ）

1912年（大正元年）三重県度会郡四郷村朝熊（現伊勢市朝熊町）に生まれる
1927年　三重県立農林学校（現　久居農林高校）入学
1934年　三重高等農林学校　傭助手となる
1937年　橋爪てると結婚
1942年　津市立高等女学校嘱託教員
1948年　度会郡豊浜中学校に転任
1950年　伊勢神宮宮域生物調査委員（1954年まで）
1952年　農林省学術研究用鳥獣捕獲許可証を得る（1970年まで更新）
1952年　大台・大杉谷自然科学調査委員
1955年　伊勢市立倉田山中学校
1958年　伊勢志摩吉野熊野国立公園拡張予定地調査委員
1966年　伊勢市立港中学校
1967年　農林省全国鳥獣調査委員（1975年まで）
1970年　退職
1971年　大杉谷・大台ヶ原自然科学調査委員
1975年　三重県自然環境保全委員（1978年まで）
2004年　死去（91才）

## 晩年の橋本先生に学んだ日々

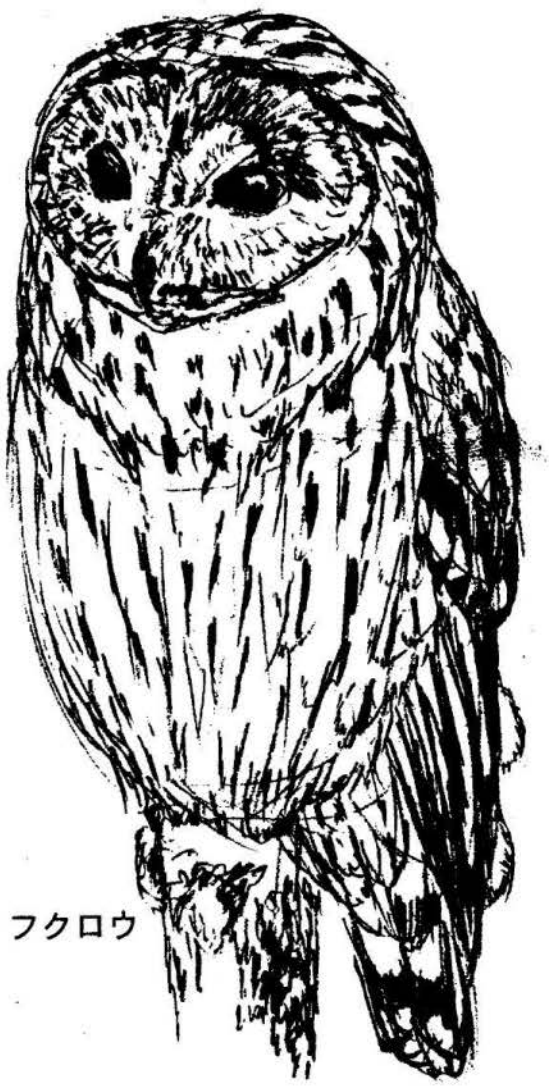
多田 弘一（松阪市）

阪神淡路大震災、東京地下鉄サリン事件など、身の毛もよだつ出来事で始まった1995年の早春、私は野鳥観察を始めた。　それまでの約40年間、昆虫観察を続けてきたが、野鳥を通じて自然を見た方が、より広い自然の現況を知ることができると考えたからである。　三重県の野鳥を見るには、過去の記録を知ることが大切なので、文献を探し始めた。　意外にも、参考となるものは少なく、橋本先生が退職後自費出版された「三重県鳥類の分布と生態」の二冊、及び「三重の鳥　カメラ・スケッチ写真集」が貴重なものであることを知った。これらの、赤・黄・緑の三冊が欲しくて、先生にお手紙を差し上げた。早速、先生から電話が来た。　「お探しの本はございます。野鳥に興味を示していただき、とても嬉しいです。早速、お送り致します」との若々しいお声に驚いた。

これが、太郎先生と私の、野鳥を通じて燃えた日々の始まりである。その頃、先生は、すでに83歳になられていた。　私は、毎日のように野鳥の観察を始め、仕事のある日は、昼休みを利用した。その日に見た種、羽数、生態観察等をノートに記し、その一ケ月分と貴重な例は画像を添えて、先生にお送りした。　野鳥に素人の私が、常識はずれの識別をしていないかチェックして戴きたかったからである。　先生は、長文の記録ノートの隅々まで丹念に目を通され、重要な箇所は、赤字で印されて戻ってき

た。同時に便箋５～６枚に、小さな字で、野鳥の観察方法、記録の整理方法、過去の記録の詳細など、びっしりと書き込まれていた。

この形式で、最初の一年が過ぎた。「あなたの観察ノートを読んでいると、私も一緒に鳥見した気分になります。画像が添えられているので分かりやすいです。来月分、首を長くしてお待ちしてます」とのお言葉が、いつも封書の文末にあった。　それは、私の探鳥意欲をかりたてた。先生は、肺気腫を患っておられたので、ちょっと歩いたり、植木鉢を持つだけでずつなく、下肢の筋力低下でバランスがとれないなどの症状があり、鳥見をするには無理があった。



フクロウ

私は先生の代わりになったつもりで、探鳥に力を注いだ。　こうして、先生のご指導を仰いでから、三回目の春が来た。「振り返ってみますと、あなたは驚くほど長足の進歩をなさったと思います。あなたの好奇心のなせる業でしょう。最早、あなたにお教えすることは何もありません」との有難いお言葉を頂戴した。「私が、いつまでも気持ちを若く保ち、仕事を推し進めていけるのは、好奇心と冒険心であり、それを永遠の青春と無限の仕事と名づけていました。今でも自然科学に対する興味は尽きません」とのお言葉は、先生が86歳の時である。　1995年から1997年まで、私はJAWANのシギチドリ全国調査に単独で参加し、マイフィールドでのカウントに情熱を注いだ。「いい仕事をなさっておられますね」と、データを読まれた先生から、いつも激励のお言葉を頂戴した。しかし、日本野鳥の会三重県支部からの、とある事情により、1997年の春の調査を終え、レポートを提出後、私は、その調査から降りた。さらに、三重県支部と本部から退会した。

先生からは「何も気になさることはないから、調査を続行すればいい」とのご助言を頂戴していたが、私の決意は固かった。そうして、私は野鳥から遠ざかったが、昆虫、他の脊椎動物などの共通する話題で、先生とは盛り上がっていた。　最後のお手紙は、2002年2月9日付で、先生は、90歳になられていた。便箋４枚に、変わらぬ達筆で、びっしりと書かれていた。

こうして、先生の83歳から90歳までの晩年に私は厚かましくもご指導を仰ぎ、頂戴した封書は50通を越えていた。先生の若さと自然科学への飽くなき情熱と追求心に驚嘆し、多くのことを学んだ。

太郎先生、７年間もの長い間、温かいご指導を賜り、誠にありがとうございました。　心静かな晩年を過ごされる予定が、私の突然の出現により、ずいぶんあわただしいことだったと思います。

私は、2003年から、野鳥界に戻りました。どうぞ、心安らかにお休みください。合掌

## 伊丹市立博物館に橋本太郎氏の足跡を訪ねて

橋本富三（津市）

橋本太郎氏の日記から、同氏が製作した鳥類の剥製が伊丹市立博物館に在ることが解り、平成17年1月8日(土)、太郎氏のご子息である橋本理市氏及び妹さん、市川副支部長、しろちどり編集部3名により伊丹市立博物館を訪問したので結果を報告する。

お話しを伺ったのは、元伊丹市立博物館学芸員で現在は伊丹市役所にお勤めの坂根隆治氏である。なお坂根隆治氏は我々と同じ、日本野鳥の会の会員でもある。

初めになぜ橋本太郎氏が製作した鳥類の剥製が伊丹市立博物館に在るかということについて当時のいきさつをお伺いした。

坂根隆治氏によると、太郎氏と坂根隆治氏の父君である坂根干（さかねもとむ）氏は、当時の三重高等農林高校(現在の三重大学生物資源学部）の先輩、後輩の関係にあり、お互いに動物好きということもあり、親交があった。卒業後、太郎氏は教員となり、干氏は伊丹市役所の職員となったが親交は続いていた。現在でもお互いのお宅には当時の交流の証として、多くの手紙が残っている。その後伊丹市に総合博物館を開館するに当たり、干氏は企画展示を始めさまざまなかたちで太郎氏のアドバイスを受けるとともに、鳥類の剥製標本を伊丹市博物館が太郎氏から橋本コレクションとして譲り受け、その一部を常設展示することとなった。

また昭和58年には特別展「鳥の世界」と題して、鳥類の剥製標本１２０種、１６１点を展示したが、そのほとんどは橋本コレクションであった。また太郎氏による「スズメの生態」の記念講演も同時に開催されている。そして、この特別展「鳥の世界」開催には、今回お話しを伺った坂根隆治氏が当時担当学芸員としてご活躍されているのは興味深い。

次にそれらの橋本コレクションが現在どのようになっているのかを見せていただくことにした。

伊丹市博物館から少し離れたところに昆陽池（こやいけ）という大きな池があるが、この池が今よりもっと自然豊かだった大正時代の、その水際を再現した幅6メートルを超える大規模ジオラマが博物館2階の一角につくられ、50種類を超える鳥類の剥製が生態環境にあわせて配置されており、これらの中に橋本コレクションが展示されている。この中にはサンカノゴイなど現在では貴重な鳥類も見られる。またジオラマに隣接して猛禽類の剥製も展示されている。いずれも保存

伊丹市博物館のジオラマ、昆陽池の様子が復元されている、コガモ、カワセミ、サンカノゴイなどが見える（博物館の許可を得て撮影）

状態は極めて良く、長い年月を経た今でもカワセミの背中は青く光り輝いている。さまざまな鳥が一堂に展示されているため、図鑑ではわかりにくい大きさの比較などが一目瞭然で判別でき、野鳥愛好者には格好の教材になると思われる。なおこれら展示のほか、研究などのために多数の橋本コレクションが保存されているとお聞きしたが、残念ながら今回は見ることはできなかった。

また、博物館には自然関係以外に、縄文・弥生時代から昭和初期頃までの伊丹の歴史についても力を入れた展示がなされており、近くの小学校の生徒は4年生になるとこの博物館を訪れ、郷土の自然や歴史について学習している。これらが坂根隆治氏にお聞きした話の概要である。

鈍い冬の光が西の空に傾きかけた頃、博物館を辞し、本物の昆陽池でしばしバードウォッチングを楽しみ、又近くの伊丹市昆虫館も訪問して、伊丹の地で橋本太郎氏の足跡を偲ぶことが出来た。

最後になりましたが、興味深いお話を聞かせていただいた坂根隆治氏、お世話になった伊丹市立博物館の川井謹子氏、ご同行いただいた諸氏に改めてお礼申し上げます。

【参　考】

1　伊丹市立博物館の紹介

・住所　兵庫県伊丹市千僧1丁目1番地の1
　電話　072-783-0582

・交通　JR伊丹駅、阪急伊丹駅前2番・4番乗り場から伊丹市バスにて「市役所前」または「裁判所前」下車。市役所の東隣り。

・利用のご案内　開館時間
　午前9時30分～午後5時
　休館日　月曜日・祝日・毎月末日
　(12月は28日)・5月4日・
　年末年始(12月29日～1月3日)

・その他　入館料無料。博物館のホームページあり。

2　橋本太郎氏に関する資料
　(伊丹市立博物館にて販売、入手可)

・題名　鳥の世界　伊丹市立博物館
　昭和58年7月30日発行

・題名　地域研究　いたみ第14号
　昭和59年3月31日発行

伊丹市博物館館内の様子、ジオラマ、猛禽類の剥製がある。
(博物館の許可を得て撮影)

## 特集：　橋本太郎氏

### 博物館の寄り道

岡　八智子（安芸郡安濃町）

昨年、伊丹市昆虫館にプラチナのツマムラサキマダラの蛹があると聞き一目見たく出かけた。温室に入るや沢山の蝶が飛び交い素晴らしい目を見張る光景、プラチナの蛹も見ることが出来感動しました。又黄金のオオゴマダラの蛹も展示してありました。アサギマダラはヒスイ（渡りの蝶なのでココには飼育されていません）でこの３種の蛹の美しさには心奪われます。外の雑木林を通り昆陽池の一角に何と凄い鳥の群れと大勢の人達。すっかり人馴れして何と足元にオナガガモ・ユリカモメ・コブハクチョウ・・給餌はいけないと言われますがココではすっかり鳥との交流に皆が癒されているようでした。

今回橋本太郎氏の特集で取材の為博物館を訪れ、その帰り又昆虫館を覗きました。係りの方が丁度羽化したばかりの蝶を子供達の頭や手のひらに止まらせたりして喜ばせていました。食草の植えた鉢に丁度卵を産み付けに来たお母さん蝶を見る事も出来ます。今回　橋本太郎氏と坂根干氏との深い交流を知る事が出来、改めてこのお二方の情熱と理想の結集が博物館の素晴らしい展示であり、昆虫館・昆陽池まで広がったのではとそのお心が伝わって来るように思えました。昆陽池では　昨年同様沢山の鳥と人が楽しんで、上空をトビが１０羽程のんびり円を描いています。本当にココが都会のど真ん中？と驚くばかりです。

是非一度皆さんにも冬の時期に立寄って頂きたいと思います。

### 橋本太郎氏の残した鳥類記録

平井正志　（安芸郡安濃町）

橋本太郎氏の著書「三重県鳥類の分布と生態」1980年発行では1950年ごろから1977年までの三重県下における鳥類の記録が記載されている。当時の記録と現在の鳥相を比べると面白い。同書の中から、興味深いと思われる記録を抜粋したものである。興味ある方は著書を見られたい。

**アビ・ミズナギドリ類**

アビ、オオハム、が鳥羽湾、紀伊長島湾で観察、採集されている。シロエリオオハム(1942/6/2)は一志郡に迷行したもの。

コアホウドリ　1976年2月24日志摩郡波切港

オナガミズナギドリ　最近津市の海岸に飛来したミズナギドリが本種ではないかと議論されているが、伊勢市と一志郡美杉村で同じ日(1962/8/27)に雌雄それぞれ1羽が捨得されている。台風による迷行であろうと推定された。

シロハラミズナギドリ　1962年、1975年に記録

ヒメクロウミツバメ　1965年11月上野市忍町にて墜死

コグンカンドリ　1969年6月9日紀伊長島沖

**サギ類**

サンカノゴイが伊勢市朝熊町保田で1974年9月16日および20日2例,拾得あるいは観察されている。うち一羽は標本にされている。おそらくこの標本は伊丹市博物館に展示されているものであろう。

ヨシゴイも観察例、採集例が多い、当時はかなり普通であったのだろう。しかし、近年著しく減少と記載されている。

オオヨシゴイ1952年9月21日三重郡大矢知村蒔田で採集されている。

コウノトリ　1974年12月6日　松阪市立野町で密猟された。

ナベコウ1968年：桑名郡多度町、1973年：一志郡一志町で記録

ヘラサギ　1970年1月志摩郡立神で記録

**カモ類**

トモエガモ　1950年と1974年の2例、それに伊藤鳥獣店の集荷から手にいれた2例、当時は今より少なかったのではないだろうか。

オカヨシガモ　1975年11月29日伊勢大湊沖で沖撃ちグループの獲物の中～選別した1例のみ、今よりはるかに少なかったと思われる。

ビロードキンクロは1950年から1974年にかけて5例あり、伊勢湾沖に普通と記載されている。

**キジ類**

ウズラ　伊勢市を中心に1950年から1967年まで13の観察あるいは採集例があり、標本とも

なっている。ごく普通種であったが、近年著しく減少と記載されている。

**クイナ類**

クイナ、ヒクイナ、のみでなく、ヒメクイナ、ツルクイナなどが拾得あるいは採集されている。ヒメクイナ1953年から1970年伊勢市朝熊町と明野町大仏山でいずれも冬季に4例が記録されている。

ツルクイナ　1959年から1972年10月と2月に3例伊勢市周辺で採集あるいは取得され、標本になっている。

クイナ類は以前はかなりな数がいたのであろう。また伊勢朝熊町に広がっていた湿地がこれらクイナ類の生息に良い場所であったのだろう。残念ながら祭り博でつぶされてしまった。反面オオバンの記録は1例1954年？桑名市ののみであり、近年生息が増えている。

**シギ・チドリ類**

ミヤコドリ　1965年秋に朝明川、長良川河口、町屋川河口で同一個体の1羽、1970年8月に木曽岬村、で2羽観察された。記録は2例のみ。標本にはなっていない。当時は珍しい鳥であったのであろう。現在ではかなりな数が毎年越冬している。

オオメダイチドリ1953年9月伊勢市樫原新田で採集されている。

ダイゼン1952年9月の3羽の記録があるのみ。当時はめずらしかったのだろうか？

ヒメウズラシギ1956年9月1日伊勢市有滝海岸で幼鳥♂1採集、標本にされている。

コアオアシシギ1967年9月に伊勢市一色町で採集されている。

カラフトアオアシシギ1953年9月8日伊勢市樫原新田で採集され、剥製にされた。貴重な標本であろう。

コシャクシギ　1963年に2回おそらく同一個体が朝明川で観察されている。標本はなし。

ジシギ類ではタシギ38例にチュウジシギ5例、オオジシギ2例、ヤマシギ4例、アオシギ1例があるが、ハリオシギの記録はないし、コシギの記録もない。チュウジシギの識別は標本によっているので、間違いは無いはずである。おそらく野外で見るタシギの中にはこれくらいの比率でチュウジシギやオオジシギが混じっているのではないだろうか、チュウジシギはバンディングでも時々標識されているので、特に珍しいものでもないが、野外ではタシギと区別できないだけであろう。

ヤマシギ　1956年から1962年に伊勢市倉田山、朝熊町で採集されている。猟期中各地で獲れているとしている。

アオシギ　1940年に伊藤鳥獣店から購入、1956年9月に内宮で採集している。

**カモメ・ウミスズメ類**

トウゾクカモメ1968年5月尾鷲湾で拾得

シロカモメ1969年4月五ヶ所湾で倉田氏ら観察。

オオアジサシ　1970年4月紀伊長島沖で倉田氏観察。

ウミスズメ類では　マダラウミスズメ、ウミスズメ、カンムリウミスズメが採集、記録されている。他にケイマフリ、ウトウの記録もある。

**ハト・フクロウ・ブッポウソウ・キツツキ類**

カラスバト　　紀伊長島鈴島（1959年）と大島（1969年）で採集されている。過去には紀伊長島、尾鷲付近で多数見られたという。

オオコノハズク　1931年から1973年冬季伊勢市周辺で多数が拾得されている。

ブッポウソウ　大杉谷不動谷（1951年6月）で繁殖が記録され、三重大学平倉演習林（1956年8月）でも成鳥と幼鳥が観察されている

オオアカゲラ　飯南郡蓮、飯南郡青田、三重大学平倉演習林、鈴鹿郡野登山で5月から8月に、また尾鷲古和谷国有林では12月に記録されている。アカゲラが平地で見られるが、オオアカゲラは標高の高い原生林に多いとしている。

**スズメ目**

イワミセキレイ　年月日不明　尾鷲市で1例
1965/12/6　度会郡南島町♀1羽

サンショウクイ　伊勢市倉田山、朝熊町、で5例いずれも春に採集あるいは観察されている。倉田山のものは春の渡りの途中であったらしい。1962/6/3　野登山で記録されている。繁殖中のものかもしれない。

アカモズ　1956年から1961年伊勢倉田山、度会郡二見町、伊勢市朝熊町で8月、9月に幼鳥

を採集。
コマドリ　1957年から58年4月に朝熊山を通過している。
アカコッコ1932年と1939年に志摩郡からのツグミ荷の中から選別し、剥製にしている。冬季に迷行したものであろう。
シマセンニュウ　耳穴島で2例（1969/4/22 1970/5/24）あるが、これは当時シマセンニュウの亜種とされていたウチヤマセンニュウの繁殖個体あろう。
マキノセンニュウ　1957年9月　伊勢市倉田山　渡りの個体であろう。
キクイタダキ　14例　伊勢市朝熊山、三重郡大矢知村、多気郡新茶屋、度会郡湯田、鳥羽市答志島　伊勢市内宮等　平地や低山で、よく見られたり、観察されたりしている。現在ではあまり見られないのではないだろうか？
コサメビタキ　春秋の渡りの時期の記録が多いが、1961年7月15日―16日に野登山で繁殖を記録している。現在では繁殖が知られていないのではないか。
キバシリ　三重大学平倉演習林、大杉谷桃の木で夏に採集している。
ノジコ　北牟婁郡相賀町(1952/2/13) 伊勢市倉田山(1957/4/28)　で採集されている。戦前は春期少数ながら見られたが、減少が著しいと記されている。本州では中部の一部で現在でも繁殖し、日本海岸では渡りの途中に、主に湿地で記録されている。
ベニヒワ　1954年桑名市七取
イスカ　1963、1968、1969年、いずれも冬季に群が観察されている。
コイカル　1975年、1978年のいずれも2月に内宮で記録されている。

オオアカゲラ

橋本太郎　発行図書一覧

| | | |
|---|---|---|
| ・動物剥製の手引 | 昭和34年1月29日 | 北隆館 |
| ・三重県鳥類の分布と生態<br>―記録・生態写真集― | 昭和58年9月1日 | 自費出版 |
| ・三重の鳥　カメラ・スケッチ写真集 | 平成5年12月1日 | 自費出版 |
| ・私たち　―思い出のアルバム― | 平成6年12月1日 | 自費出版 |
| ・農村地帯のスズメ群<br>―個体群の生態― | 平成7年9月1日 | 自費出版 |
| ・私の写した三重県内動植物記録写真集 | 平成11年4月1日 | 自費出版 |
| ・シマヘビ黒色型・俗称カラスヘビ（愛称クロちゃん）<br>２６年飼育記録写真集　日本最長寿 | 平成13年12月29日 | 自費出版 |
| ・坂本式　動物剥製法 | 昭和52年1月10日 | 図鑑の北隆館 |
| ・三重県鳥類の分布と生態<br>―記録と標本― | 昭和55年5月25日 | 自費出版 |
| ・私の作った動物剥製写真集 | 平成10年1月1日 | 自費出版 |

## 三重県立博物館の橋本コレクションを訪ねて

橋本富三（津市）

橋本太郎氏のご子息の理市氏から、三重県立博物館に太郎氏の鳥類標本が多数所蔵されているとのお話しをいただき、白梅のつぼみがほころびかけた早春の平成17年2月10日、しろちどり編集部3名により三重県立博物館を訪問した。

博物館のご担当に、標本の写真数点の撮影許可と、鳥類標本一覧（橋本コレクション）作成の為の資料閲覧についてお願いをしたところ快諾をいただいた。

その写真の一部と、膨大な橋本コレクションを下記にご紹介するので太郎氏のご活躍の一端を偲んでいただければありがたい。ただ、標本は常設展示されておらず、学術的研究、調査など特別な場合に限って閲覧を許可しているとの事であった。しかしこれら膨大で貴重なコレクションが簡単に見られないのは残念なことである。今後、このコレクションが一般の野鳥愛好者にも気軽に楽しめるように関係者の方にご配慮いただけるとありがたい。

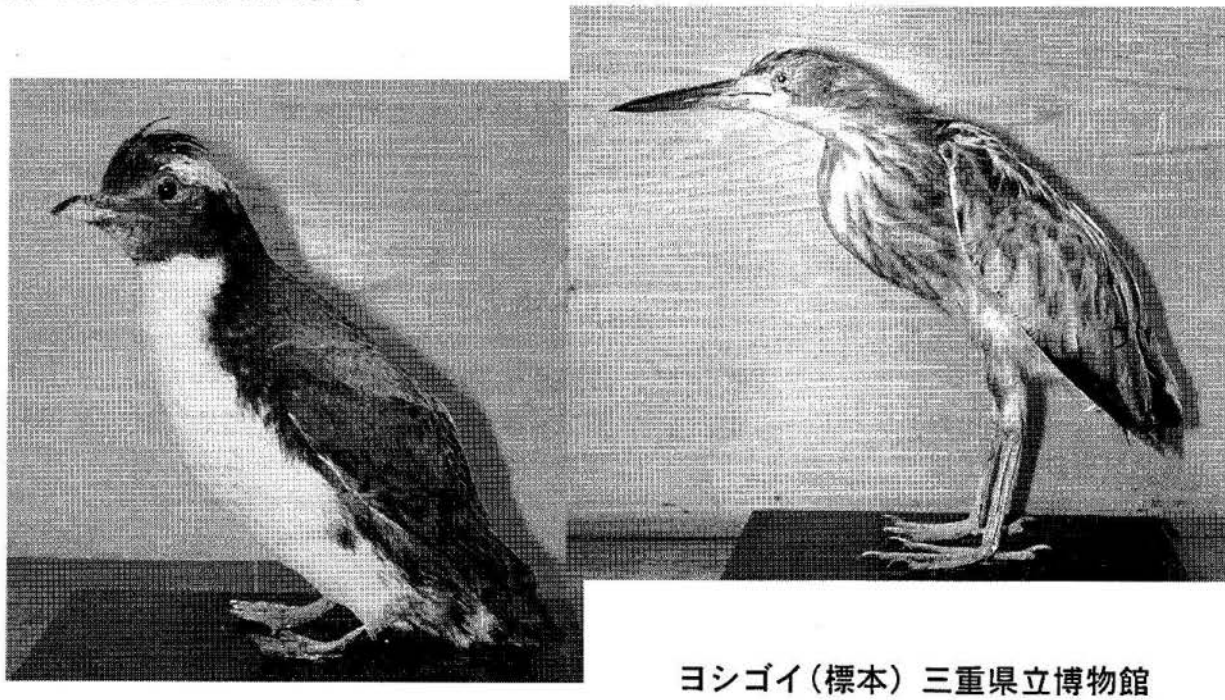
藤原館長によれば、これだけの野鳥の研究は、県内はもちろん、東海地方でもトップレベルであろうとのお話であった。また館長のお口添えにより、以前太郎氏と交流のあった冨田（前）館長の貴重な手記をいただくことが出来たのは編集子、望外の喜びとなった。

最後になりましたが、今回の取材に全面的にご協力をいただいた藤原館長、中村様、また快く手記をお寄せいただいた冨田（前）館長、及び関係者の皆様に改めて御礼を申し上げます。

【参　　考】

三重県博物館の紹介

・住所　三重県津市広明町147の2
　　電話059-228-2283
・利用のご案内　開館時間
　　午前9時30分～午後5時
・休館日　毎週月曜日　祝日の翌日
　　年末年始　臨時に休館もあり
・入場料　一般個人：４０円
　　高大生個人：３０円
　　中学生以下及び６５歳以上：無料
・その他　博物館のホームページあり



ヨシゴイ（標本）三重県立博物館

カンムリウミスズメ（標本）三重県立博物館

## 特集：　橋本太郎氏

三重県立博物館所蔵　橋本太郎氏剥製一覧　（三重県立博物館・掲載許可済）

| 種　類 | 採集場所 | 採集日 | 剥製 |
|---|---|---|---|
| カイツブリ | 伊勢市豊浜町 | 19620600 | |
| シロハラミズナギドリ | 一志郡白山町川口小野 | 19750821 | 本 |
| ハシボソミズナギドリ | 津市江戸橋志登茂川河口 | 19750605 | |
| カワウ | 伊勢湾 | 19680200 | |
| ウミウ | 北牟婁郡 | 19611225 | |
| ヒメウ | 伊勢湾 | 19650100 | |
| ヨシゴイ | 度会郡二見町 | 19550400 | |
| ゴイサギ | 伊勢市朝熊町 | 19700300 | |
| ゴイサギ | 伊勢市朝熊町 | 19700300 | |
| アマサギ | 桑名郡野代 | 19600500 | |
| アマサギ | 松阪市伊勢寺町 | 19820529 | |
| コサギ | 津市　白塚海岸 | 19770105 | |
| マガモ | 伊勢市朝熊町 | 19750100 | |
| マガモ | 伊勢市朝熊町 | 19750100 | |
| カルガモ | 伊勢市朝熊町 | 19650200 | |
| カルガモ | 伊勢市朝熊町 | 19790100 | |
| カルガモ | 伊勢市朝熊町 | 19790100 | |
| コガモ | 度会郡二見町 | 19780100 | |
| コガモ | 度会郡二見町 | 19780100 | |
| トモエガモ | 伊勢湾 | 19651200 | |
| ハシビロガモ | 伊勢湾 | 19600100 | |
| クロガモ | 伊勢湾 | 19690200 | |
| ホオジロガモ | 伊勢市豊浜町 | 19550100 | |
| アヒル | | 19750300 | |
| トビ | 一志郡一志町 | 19780411 | |
| ノスリ | 伊勢市倉田山 | 19561200 | |
| ウズラ | 伊勢市朝熊町 | 19650200 | |
| コジュケイ | 津市広明町 | 19740400 | |
| コジュケイ | 一志郡白山町 | 19760100 | |
| コジュケイ | 鳥羽市堅神 | 19751200 | |
| コジュケイ | 鳥羽市堅神 | 19751200 | |
| コウライキジ | | 19700300 | |
| コウライキジ | | 19700300 | |
| 河内奴 | | | |
| 河内奴 | | | |
| 鳥骨鶏 | | | |
| 鳥骨鶏 | | | |
| バン | 伊勢市朝熊町 | 19660100 | |
| バン | 伊勢市豊浜町 | 19661100 | |
| バン | 伊勢市朝熊町 | 19770200 | |
| オオバン | 三重県 | 19320200 | |
| タマシギ | 伊勢市一宇田町 | 19561200 | |
| タマシギ | 伊勢市一宇田町 | 19600100 | |
| イカルチドリ | 伊勢市朝熊町 | 19651117 | |
| イカルチドリ | 伊勢市一色町 | 19620200 | |
| シロチドリ | 伊勢市北浜町 | 19590310 | |
| ケリ | 多気郡明和町 | 19551200 | |
| ケリ | 伊勢市一色町 | 19600620 | |
| ケリ | 伊勢市一色町 | 19630300 | |
| タゲリ | 伊勢市一色町 | 19560205 | |
| キョウジョシギ | 伊勢市有滝町 | 19570512 | |
| ハマシギ | 津市　津海岸 | 19780300 | |
| キリアイ | 伊勢市村松町 | 19551010 | |
| アオアシシギ | 伊勢市朝熊町 | 19550521 | |
| クサシギ | 伊勢市松尾山 | 19560912 | 仮 |
| クサシギ | 度会郡小俣町明野 | 19540200 | |
| タカブシギ | | | |
| イソシギ | 伊勢市朝熊町 | 19611115 | |
| ソリハシシギ | 伊勢市村松町 | 19610530 | |
| ヤマシギ | 伊勢市朝熊町 | 19600100 | |

| 種　類 | 採集場所 | 採集日 | 剥製 |
|---|---|---|---|
| タシギ | 伊勢市朝熊町 | 19801200 | |
| タシギ | 伊勢市朝熊町 | 19801200 | |
| チュウジシギ | 伊勢市樫原町 | 19621112 | |
| チュウジシギ | 伊勢市朝熊町 | 19681200 | |
| セグロカモメ | 伊勢市南島町 | 19590300 | |
| オオセグロカモメ | 度会郡南島町 | 19590300 | |
| カモメ | 鳥羽湾 | 19560200 | |
| アジサシ | 伊勢市豊浜町 | 19550900 | |
| キジバト | 伊勢市朝熊町 | 19651200 | |
| キジバト | 伊勢市朝熊町 | 19810200 | |
| フクロウ | 津市粟真 | 19810916 | 仮 |
| ヤマセミ | 松阪市大石 | 19601202 | |
| ヤマセミ | 一志郡美杉村川上字坂本 | 19761120 | |
| ブッポウソウ | | | |
| コゲラ(シコクコゲラ) | 伊勢市朝熊町 | 19641121 | |
| キセキレイ | 度会郡四郷村 | | 仮 |
| キセキレイ | 伊勢市朝熊町 | 19551227 | |
| ハクセキレイ | 津市 | 19340000 | 仮 |
| ハクセキレイ | 伊勢市朝熊町 | 19631203 | |
| セグロセキレイ | 海山相賀 | 19501004 | 仮 |
| ビンズイ | 度会郡小俣町 | 19401100 | 仮 |
| ビンズイ | 伊勢市倉田山 | 19560130 | |
| タヒバリ | 度会郡四郷村 | 19340900 | 仮 |
| ヒヨドリ | 伊勢市朝熊町 | 19520218 | |
| モズ | 伊勢市朝熊町 | 19661000 | |
| カワガラス | 伊勢市内宮島路山 | 19621000 | |
| ミソサザイ | 伊勢市内宮島路山 | 19530200 | 仮 |
| コマドリ | 伊勢市朝熊町　朝熊山 | 19661219 | 仮 |
| ノビタキ | 伊勢市鹿海町(かのめ町) | 19651125 | |
| イソヒヨドリ | 鳥羽市桃取町答志島 | 19540120 | |
| トラツグミ | 伊勢市朝熊町 | 19621117 | 仮 |
| ツグミ | 津市大字分部 | 19780300 | |
| ツグミ | 伊勢市豊浜町 | 19630200 | |
| ツグミ | 伊勢市豊浜町 | 19630200 | |
| ツグミ | 伊勢市豊浜町 | 19630200 | |
| センダイムシクイ | 伊勢市倉田山 | 19560424 | 仮 |
| キビタキ | 北牟婁郡 | 1004 | 本 |
| オオルリ | 伊勢市倉田山 | 19550502 | 仮 |
| エゾビタキ | 伊勢市倉田山 | 19550500 | 仮 |
| シジュウカラ | 伊勢市朝熊町 | 19601215 | |
| ホオジロ | 伊勢市朝熊町 | 19620125 | |
| カシラダカ | 度会郡小俣町 | 19511100 | 仮 |
| アオジ | 度会郡四郷村 | 19331100 | 本 |
| クロジ | 度会郡四郷村 | 19331100 | 本 |
| アトリ | 伊勢市朝熊町朝熊山 | 19350100 | 仮 |
| カワラヒワ | 度会郡豊浜町 | 19501100 | 仮 |
| カワラヒワ(オオカワラヒワ) | 伊勢市鹿海町 | 19550200 | 仮 |
| イカル | 鈴鹿市野登山 | 19610716 | 仮 |
| スズメ | 伊勢市朝熊町 | 19751200 | |
| ムクドリ | 伊勢市豊浜町 | 19641100 | |
| ムクドリ | 伊勢市豊浜町 | 19641100 | |
| ハシボソガラス | 伊勢市朝熊町 | 19801200 | |
| ハシブトガラス | 度会郡小俣町 | 19500900 | 本 |
| ハシブトガラス | 伊勢市朝熊町 | 19801200 | |
| ホトトギス | 津市広明町　県立博物館 | 19820917 | 仮 |
| コシジロウミツバメ | 伊勢市中須町 | 19791019 | 本 |
| ヒメウ | 伊勢市　伊勢湾大淀沖 | 19770109 | 本 |
| クロサギ | 北牟婁郡紀伊長島町(沖) | 19690503 | 本 |
| アオサギ | | | 本 |
| マガモ | 伊勢市 | 19871228 | 本 |

| 種　類 | 採集場所 | 採集日 | 剥製 |
|---|---|---|---|
| マガモ | 伊勢市一宇田町 | 19740109 | 本 |
| カルガモ | 伊勢市朝熊町 | 19530202 | 本 |
| カルガモ | 伊勢市朝熊町 | 19831204 | 本 |
| オシドリ | 多気郡多気町 | 19600226 | 本 |
| オシドリ | 伊勢市朝熊町 | 19841119 | 本 |
| ヒドリガモ | 伊勢市朝熊町 | 19801226 | 本 |
| ヒドリガモ | | | 本 |
| アメリカヒドリ | | | 本 |
| ホシハジロ | 伊勢市一色町 | 19851130 | 本 |
| コガモ | | | 本 |
| スズガモ | | | 本 |
| カルガモ×マガモ | 伊勢市朝熊町 | 19851127 | 本 |
| カラフトワシ | | | 本 |
| オオケアシノスリ | | 19850508 | 本 |
| ハチクマ | | | 本 |
| チョウセンオオタカ | | 19850508 | 本 |
| タイワンオオタカ | | 19840413 | 本 |
| ハイタカ | | 19890429 | 本 |
| ハイタカ | | 19840405 | 本 |
| ツミ | | 19810404 | 本 |
| ツミ | | 19890516 | 本 |
| チョウゲンボウ | | | 本 |
| チョウゲンボウ | | | 本 |
| チゴハヤブサ | | 19890516 | 本 |
| チゴハヤブサ | | | 本 |
| トビ | | | 本 |
| トビ | 伊勢市朝熊町 | 19581200 | 本 |
| キジ | | | 本 |
| ウスアカヤマドリ | | | 本 |
| イカルチドリ | | | 本 |
| セイタカシギ | | | 本 |
| カンムリウミスズメ | 北牟婁郡紀伊長島町(湾外) | 19560504 | 本 |
| トラフズク | | | 本 |
| ヒヨドリ | 伊勢市朝熊町 | 19910200 | 本 |
| ヒヨドリ | 伊勢市朝熊町 | 19910200 | 本 |
| アカモズ | | 19801224 | 本 |
| カワガラス | 一志郡美杉 | 19780210 | 本 |
| ノゴマ | | 19801224 | 本 |
| シロハラ | 伊勢市朝熊町 | 19890300 | 本 |
| ツグミ | | | 本 |
| ウグイス | 伊勢市朝熊町 | 19910100 | 本 |
| ウグイス | 伊勢市朝熊町 | 19910200 | 本 |
| サンコウチョウ | | | 本 |
| サンコウチョウ | | | 本 |
| メジロ | 伊勢市朝熊町 | 19910100 | 本 |
| メジロ | 伊勢市朝熊町 | 19910100 | 本 |
| アオジ | 伊勢市朝熊町 | 19910413 | 本 |
| アオジ | | | 本 |
| クロジ | 伊勢市朝熊町 | | 本 |
| カワラヒワ | 伊勢市朝熊町 | 19910426 | 本 |
| シメ | 伊勢市朝熊町 | 19910424 | 本 |
| ムクドリ | | | 本 |
| カケス | | | 本 |
| ハシボソガラス | | | 本 |
| カイツブリ | 伊勢市豊浜町(旧度会郡豊浜村) | 19611100 | 仮 |
| カイツブリ | 伊勢市豊浜町(旧度会郡) | 19560500 | 仮 |
| ハシボソミズナギドリ | 多気郡明和町大淀 | 19890524 | 仮 |
| クロサギ | 尾鷲市寺島 | 19581230 | 仮 |
| ヨシゴイ | 尾鷲市須賀利 | 19520525 | 仮 |
| ゴイサギ | 伊勢市朝熊町 | 19820900 | 仮 |

| 種　類 | 採集場所 | 採集日 | 剥製 |
|---|---|---|---|
| ホシハジロ | 伊勢市一色町 | 19891125 | 仮 |
| ヒドリガモ | 伊勢市朝熊町 | 19751224 | 仮 |
| キンクロハジロ | 兵庫県神戸市 | 19590308 | 仮 |
| スズガモ | 多気郡明和町大淀 | 19910113 | 仮 |
| コガモ | 伊勢市朝熊町 | 19901115 | 仮 |
| トモエガモ | 伊勢市朝熊町 | 19570307 | 仮 |
| コオリガモ | | 19860401 | 仮 |
| コオリガモ | | 19860401 | 仮 |
| オカヨシガモ | 志摩郡磯部町穴川 | 19840129 | 仮 |
| マガモ | 伊勢市朝熊町 | 19841115 | 仮 |
| オシドリ | | | 仮 |
| ハイタカ | | | 仮 |
| ツミ | | 19780420 | 仮 |
| チゴハヤブサ | | 19820427 | 仮 |
| オオカンムリワシ | | 19800000 | 仮 |
| トビ | 伊勢市樫原町 | 19590315 | 仮 |
| ミサゴ | 伊勢市樫原町 | 19590315 | 仮 |
| サシバ | 伊勢市朝熊町 | 19560828 | 仮 |
| イワシャコ | | | 仮 |
| シロチドリ | 多気郡明和町大淀 | 19601231 | 仮 |
| ダイゼン | 伊勢市大湊町 | 19851127 | 仮 |
| アジサシ | 大阪府住吉 | 19510511 | 仮 |
| コアジサシ | 伊勢市樫原町 | 19610507 | 仮 |
| マダラウミスズメ | 伊勢湾 | 19750202 | 仮 |
| ウミスズメ | 鳥羽市 | 19890128 | 仮 |
| タマシギ | | | 仮 |
| トウネン | 伊勢市樫原町 | 19630513 | 仮 |
| トウネン | 伊勢市一色町 | 19680901 | 仮 |
| タカブシギ | 兵庫県伊丹 | 19521026 | 仮 |
| タカブシギ | 伊勢市樫原町 | 19630909 | 仮 |
| クサシギ | 度会郡小俣町明野 | 19510218 | 仮 |
| キアシシギ | 伊勢市朝熊町 | 19590907 | 仮 |
| イソシギ | 伊勢市豊浜町 | 19530800 | 仮 |
| オバシギ | 伊勢市樫原町新田 | 19600911 | 仮 |
| ハマシギ | 伊勢市樫原町 | 19590426 | 仮 |
| ヒバリシギ | 大阪府住吉 | 19570818 | 仮 |
| キョウジョシギ | 伊勢市北浜町 | 19530900 | 仮 |
| キョウジョシギ | 伊勢市北浜町 | 19530900 | 仮 |
| アオアシシギ | 伊勢市朝熊町 | 19550807 | 仮 |
| ツルシギ | 伊勢市朝熊町浜田 | 19780506 | 仮 |
| チュウシャクシギ | 伊勢市北浜町有滝 | 19540505 | 仮 |
| オオソリハシシギ | 大阪府住吉 | 19520406 | 仮 |
| タシギ | 伊勢市松尾町 | 19570129 | 仮 |
| タシギ | 津市 | 19601230 | 仮 |
| オオジシギ | 伊勢市朝熊町 | 19770908 | 仮 |
| アオシギ | 度会郡 | 19380109 | 仮 |
| アカアシシギ | 伊勢市北浜町有滝 | 19531010 | 仮 |
| コオバシギ | 伊勢市樫原町 | 19530910 | 仮 |
| コアオアシシギ | 伊勢市一色町 | 19670915 | 仮 |
| アカエリヒレアシシギ | 伊勢市一色町 | 19661009 | 仮 |
| カラスバト | 北牟婁郡紀伊長島町鈴島 | 19590105 | 仮 |
| アオバト | 伊勢市内宮島路山 | 19620411 | 仮 |
| アオバト | 伊勢市内宮島路山 | 19570315 | 仮 |
| コミミズク | 一志郡雲出川近鉄鉄橋上流 | 19820210 | 仮 |
| アオバズク | 伊勢市一之木町厚生小 | | 仮 |
| フクロウ | 度会郡小俣町 | 19551100 | 仮 |
| フクロウ | 伊勢市 | 19611000 | 仮 |
| ブッポウソウ | | | 仮 |
| ツバメ | 伊勢市磯川町 | | 仮 |
| ツバメ | 伊勢市 | 19840600 | 仮 |

## 特集： 橋本太郎氏

| 種　類 | 採集場所 | 採集日 | 剥製 |
|---|---|---|---|
| ヒバリ | 伊勢市鹿海 | 19571231 | 仮 |
| ヒバリ | 度会郡豊浜村磯 | 19500720 | 仮 |
| タヒバリ | 伊勢市朝熊町 | 19340000 | 仮 |
| タヒバリ | 多気郡三和町 | 19600410 | 仮 |
| ビンズイ | 伊勢市倉田山 | 19550414 | 仮 |
| ビンズイ | 伊勢市倉田山 | 19550430 | 仮 |
| ハクセキレイ | 度会郡小俣町 | 19541128 | 仮 |
| ハクセキレイ | 伊勢市 | 19570400 | 仮 |
| キセキレイ | 伊勢市 | | 仮 |
| ヒヨドリ | 伊勢市 | 19901200 | 仮 |
| ヒヨドリ | 伊勢市朝熊町 | 19851200 | 仮 |
| モズ | 伊勢市楠部町 | 19610219 | 仮 |
| モズ | 伊勢市内宮島路山 | 19620311 | 仮 |
| アカモズ | | 19801224 | 仮 |
| アカモズ | | 19801224 | 仮 |
| ヒレンジャク | 伊勢市今在家 | 19580302 | 仮 |
| ヒレンジャク | 伊勢市朝熊町 | 19330201 | 仮 |
| カワガラス | 伊勢市島路山 | 19550821 | 仮 |
| カワガラス | 伊勢市五十鈴川上流 | 19500319 | 仮 |
| ツグミ | 伊勢市付近 | | 仮 |
| ツグミ | 伊勢市付近 | 19320000 | 仮 |
| トラツグミ | 伊勢市倉田山 | 19500100 | 仮 |
| シロハラ | 伊勢市小俣町明野 | 19531200 | 仮 |
| アカハラ | 伊勢市付近 | 19320000 | 仮 |
| マミチャジナイ | 富山県 | | 仮 |
| オオルリ | 飯南郡飯高町 | 19610500 | 仮 |
| ミソサザイ | 津市上浜町　三重大農学部 | 19531126 | 仮 |
| キクイタダキ | 伊勢市内宮 | 19561125 | 仮 |
| ジョウビタキ | 伊勢市朝熊町 | 19320201 | 仮 |
| ジョウビタキ | 伊勢市朝熊町 | 19320201 | 仮 |
| ウグイス | 伊勢市朝熊町 | 19330000 | 仮 |
| ウグイス | 伊勢市朝熊町 | 19330000 | 仮 |
| センダイムシクイ | 伊勢市朝熊町 | 19610814 | 仮 |
| メボソムシクイ | 員弁郡 | 19870910 | 仮 |
| コムシクイ | 二見町溝口 | 19561103 | 仮 |
| コサメビタキ | 伊勢市倉田山 | 19550430 | 仮 |
| ルリビタキ | 伊勢市朝熊町 | 19320207 | 仮 |
| オオヨシキリ | 伊勢市豊浜 | 19530000 | 仮 |
| シマセンニュウ | 伊勢市豊浜植山 | 19540601 | 仮 |
| ヤブサメ | 伊勢市松尾 | 19560919 | 仮 |
| キバシリ | 一志郡美杉村　三重大演習林 | 19620503 | 仮 |
| セッカ | 伊勢市付近 | 19380129 | 仮 |
| エナガ | 伊勢市朝熊町 | 19860128 | 仮 |
| エナガ | 度会郡玉城町岡出 | 19840521 | 仮 |
| シジュウカラ | 伊勢市朝熊町 | 19851222 | 仮 |
| メジロ | 伊勢市朝熊町 | 19760217 | 仮 |
| メジロ | 伊勢市朝熊町 | 19860102 | 仮 |
| ホオジロ | 伊勢市楠部町 | 19590429 | 仮 |
| ホオジロ | 伊勢市朝熊町 | 19330000 | 仮 |
| アオジ | 伊勢市 | 19871000 | 仮 |
| アオジ | 伊勢市 | 19901200 | 仮 |
| ミヤマホウジロ | 度会郡小俣町 | 19550102 | 仮 |
| ミヤマホウジロ | 伊勢市朝熊町 | 19780312 | 仮 |
| オオジュリン | 京都府京都市伏見区稲荷 | 19560105 | 仮 |
| オオジュリン | 伊勢市朝熊町 | 19570101 | 仮 |
| アトリ | 伊勢市朝熊町 | 19890221 | 仮 |
| イカル | 伊勢市朝熊町 | 19690000 | 仮 |

| 種　類 | 採集場所 | 採集日 | 剥製 |
|---|---|---|---|
| シメ | 伊勢市付近 | | 仮 |
| ウソ | 伊勢市 | | 仮 |
| アカウソ | 伊勢市宇治山田付近 | 19500214 | 仮 |
| カシラダカ | 度会郡小俣町 | 19600416 | 仮 |
| クロジ | 伊勢市朝熊町文渕 | 19330219 | 仮 |
| ホオアカ | 津市上浜町（旧高農） | 19380000 | 仮 |
| ベニマシコ | 伊勢市朝熊町 | 19591108 | 仮 |
| ベニマシコ | 伊勢市朝熊町 | 19591108 | 仮 |
| マヒワ | 伊勢市朝熊町 | 19370228 | 仮 |
| マヒワ | 伊勢市 | 19580413 | 仮 |
| カワラヒワ | 伊勢市朝熊町 | 19670400 | 仮 |
| カワラヒワ | 伊勢市神田久志本町 | 19610114 | 仮 |
| カワラヒワ | 伊勢市神田久志本町 | 19570220 | 仮 |
| カワラヒワ | 伊勢市一色町 | 19710103 | 仮 |
| ノジコ | 伊勢市倉田山 | 19570428 | 仮 |
| ムクドリ | 津市 | 19330200 | 仮 |
| ムクドリ | 度会郡小俣町 | 19541128 | 仮 |
| コムクドリ | 伊勢市朝熊町 | 19340000 | 仮 |
| コムクドリ | 伊勢市倉田山 | 19570428 | 仮 |
| カケス | 一志郡美杉村川上 | 19580505 | 仮 |
| カケス | 伊勢市鹿海 | 19581214 | 仮 |
| フルマカモメ | 津市栗真町屋町町屋海岸 | 19830702 | |
| コハクチョウ | 志摩郡 | 19810100 | |
| ヒドリガモ | 伊勢市一色町 | 19790100 | |
| ハシビロガモ | 伊勢湾大湊沖 | 19700100 | |
| クロガモ | 伊勢湾二見沖 | 19650200 | |
| ウズラ | 伊勢市一色町 | 19730200 | |
| ツルクイナ | 尾鷲市古戸町 | 19821004 | |
| コアジサシ | 三重郡川越町亀崎 | 19820622 | |
| ヤマショウビン | 志摩郡阿児町立神 | 19820512 | |
| ヒバリ | 度会郡小俣町明野 | 19620300 | |
| ヒヨドリ | 鳥羽市 | 19650200 | |
| ムクドリ | 伊勢市黒瀬町 | 19570100 | |
| オオコノハズク | | | 本 |
| コジュケイ | 一志郡美杉村川上 | 19921227 | 本 |
| ベニマシコ | 一志郡美杉村川上 | 19930213 | 本 |
| コクガン | 津市安濃川河口 | 19890116 | 本 |
| トラツグミ | 一志郡美杉村川上 | 19870510 | 本 |
| タゲリ | 伊勢市 | 19600000 | 本 |

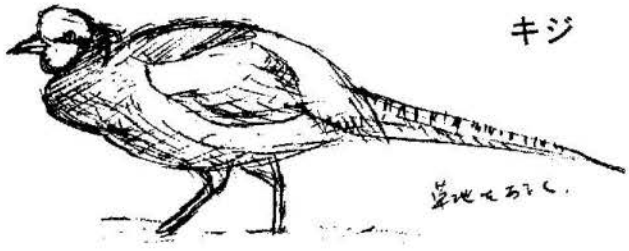
表中の剥製の仮、本は仮剥製、本剥製を示す。仮剥製は羽根をたたんだ状態で保存され、学術標本に主として用いられるが、展示には向かない。本剥製は展示用として、生きている状態に似せて、作られている。主には立った状態に作られているが、飛んでいる様子のものや、水中にもぐっている状態のものもある。

## 橋本太郎先生を偲んで

冨田靖男（前三重県立博物館長）

橋本太郎先生のお名前は学生時代より各種著書等によってよくお聞きしており、専攻教室（昆虫学）の大町文衛先生や山下善平先生とのつながりもあって当時、時々お会いしていたかと思いますが、個人的に親しくご交誼が始まったのは私が三重県立博物館に勤務した1963年からのことです。博物館の収蔵資料の中には先生からご寄贈いただいた標本が多数含まれており、早速ご挨拶に伺いましたが、以降、お亡くなりになられるまで40余年、公私にわたり、ご親交を深めていただきました。先生の思い出は尽きぬほどありますが、２，３をたどってみましょう。

先生とは博物館の公用車でよく大杉谷や高見山などへ自然観察に出かけたことがあります。とりわけ1971年には大杉谷・大台ケ原の総合的な学術調査が実施されたこともあり、数回合同調査をする機会がありました。先生は鳥類調査班として参加されていましたが、何事も几帳面に記録をとられ、また非常に記憶力の良い方であったというのが当時の印象でした。先生は細身であるにもかかわらず、山では大変健啖でした。食べることが山での体力維持につながると日頃から言われていましたが、これが先生のスタミナの原動力になっていたものと思います。三重県立博物館に保管されている剥製標本のうち、「日本鶏シリーズ」と「橋本太郎鳥類コレクション」は全国的にも有数のものです。日本鶏は17鶏種が国の天然記念物に指定（登録された固体のみ指定）されていますが県立博物館には先生の作製による三重県管轄の５鶏種を始め12鶏種が保管されています。これらの日本鶏はいずれも「三重県の天然記念物展」を企画したのがきっかけで、1971年から1974年頃を中心に県内の日本鶏保存会の会員の方々から寄贈された未登録でかつ、基準に合った姿の優良な成鶏であり、剥製作製については、その道の第一人者である先生にご依頼いたしました。先生は剥製の作製にあたっては、必ず事前に自宅でしばらく飼育観察して写真やスケッチをとり、鶏種それぞれの特徴を充分に把握してからとりかかったとのことですが、注射で殺す時が一番つらかったと常々申されておりました。今思うと、先生には随分つらい仕事をお願いしていたものだと切に感じている次第です。



キジ

一方「橋本太郎鳥類コレクション」は、先生から兵庫県の伊丹市立博物館に鳥類標本を多数分譲されたとの話をお聞きしましたので、三重県立博物館にも地元産の鳥類剥製を基礎資料として何とかお譲りいただけないかとお願いしたところ、快く1992年と1993年の２回に分けて分譲いただきました。総点数は本剥製118点、仮剥製193点で、いずれも三重県産中心のデータのしっかりした貴重な資料であり、先生のコレクションとして今後とも永久的に保管されていくものと思います。

ところで先生は飼育についてもこまめであり、傷病鳥として保護されたタカ（確かチョウゲンボウであったかと思います）の面倒を長く見ておられました。またシマヘビの完全黒化型の「クロちゃん」も1962年の捕獲時から1989年の死亡まで26年10ヶ月にわたって長期間飼育されており、私が初めてお伺いした時にもまず紹介されました。その後、家内共々お邪魔すると、いつも奥様とお揃いで出迎えてくださり、お話しをしている合間にそっと押入れから箱を出して「クロちゃん」を見せていただいたものです。

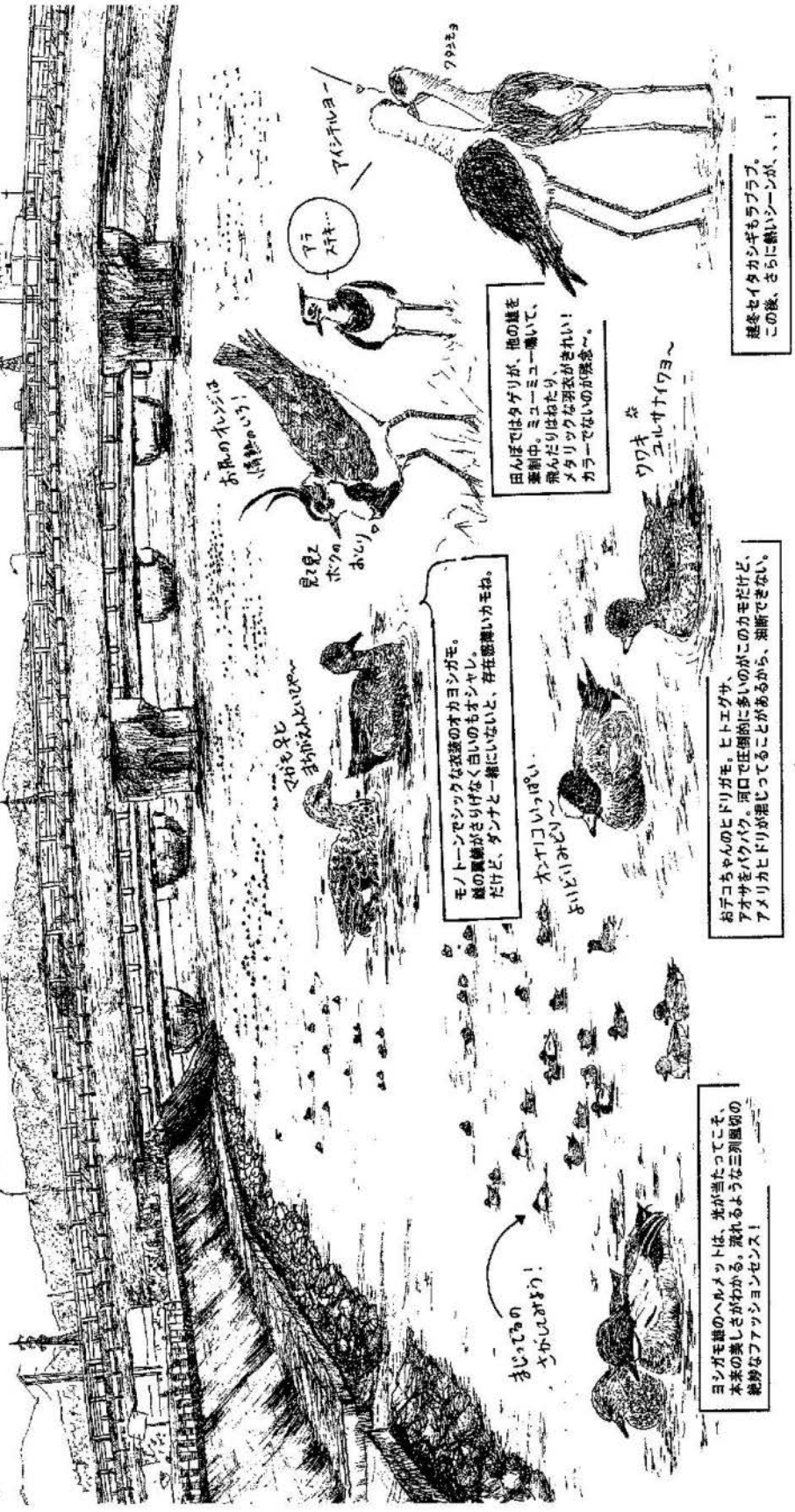
先生は晩年耳が少し遠くなられ、肺気腫のため息切れがしやすいと言っておられましたが、よく通る高いお声で時々お電話をいただいたものです。今も突然電話が鳴り、「冨田さん、橋本です、お元気ですか、」という先生の元気な声が聞こえてくるような気がします。

橋本太郎先生、心よりご冥福をお祈り申し上げます。　　2005年２月

# ふあるこおばちゃんの今回も鳥日和 その6

## 冬だけど、春。 12月28日（火）

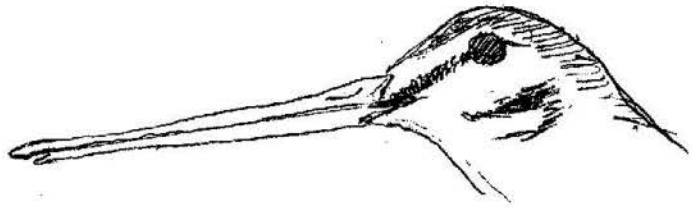
今日は今年最後の鳥納め、松阪市のフィールドにて。やっぱり、三重のフィールドはいいな。たくさんのカモの羽音、ピュッと鳴く声。この風景を見ていると、ほっとします。
これから寒くなる一方だというのに、早くも河口は恋の季節の始まり。
小春日和はデート日和。こちらもあてられて、ぽっかぽか～、だったらいいのだけれど…。

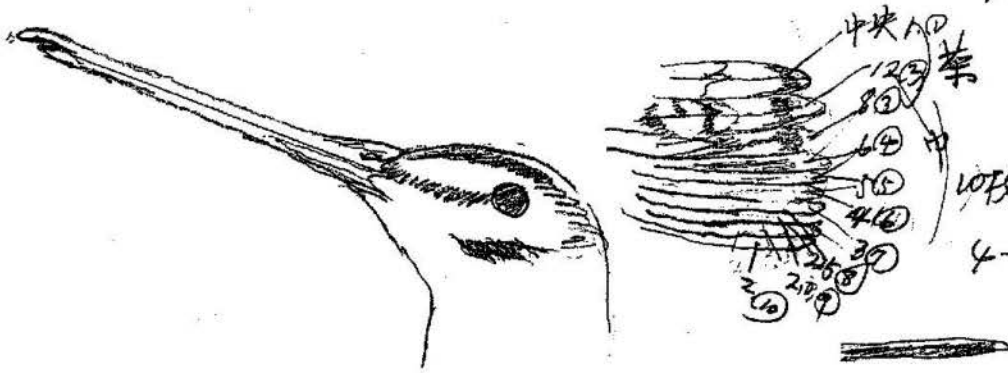



小坂里香（度会郡度会町）

全 250
翼 140
尾 55
嘴 67
跗 35

チュウジシギ 成
1977-9-8
[illegible]






9×2=18枚

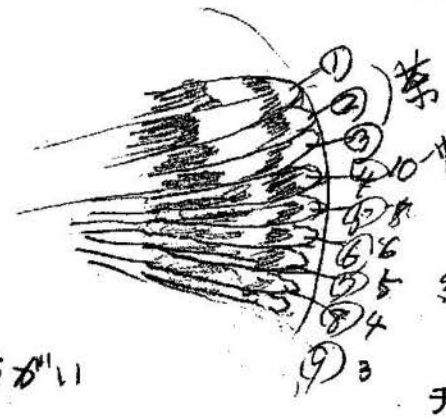
内側数字カミリ

10枚 10×2.

4-9 黒白
元外側
内側

全 270
翼 140
尾 55
嘴 70
跗 35

オオジシギ ♀(幼)
1977-9-18 稔[illegible]

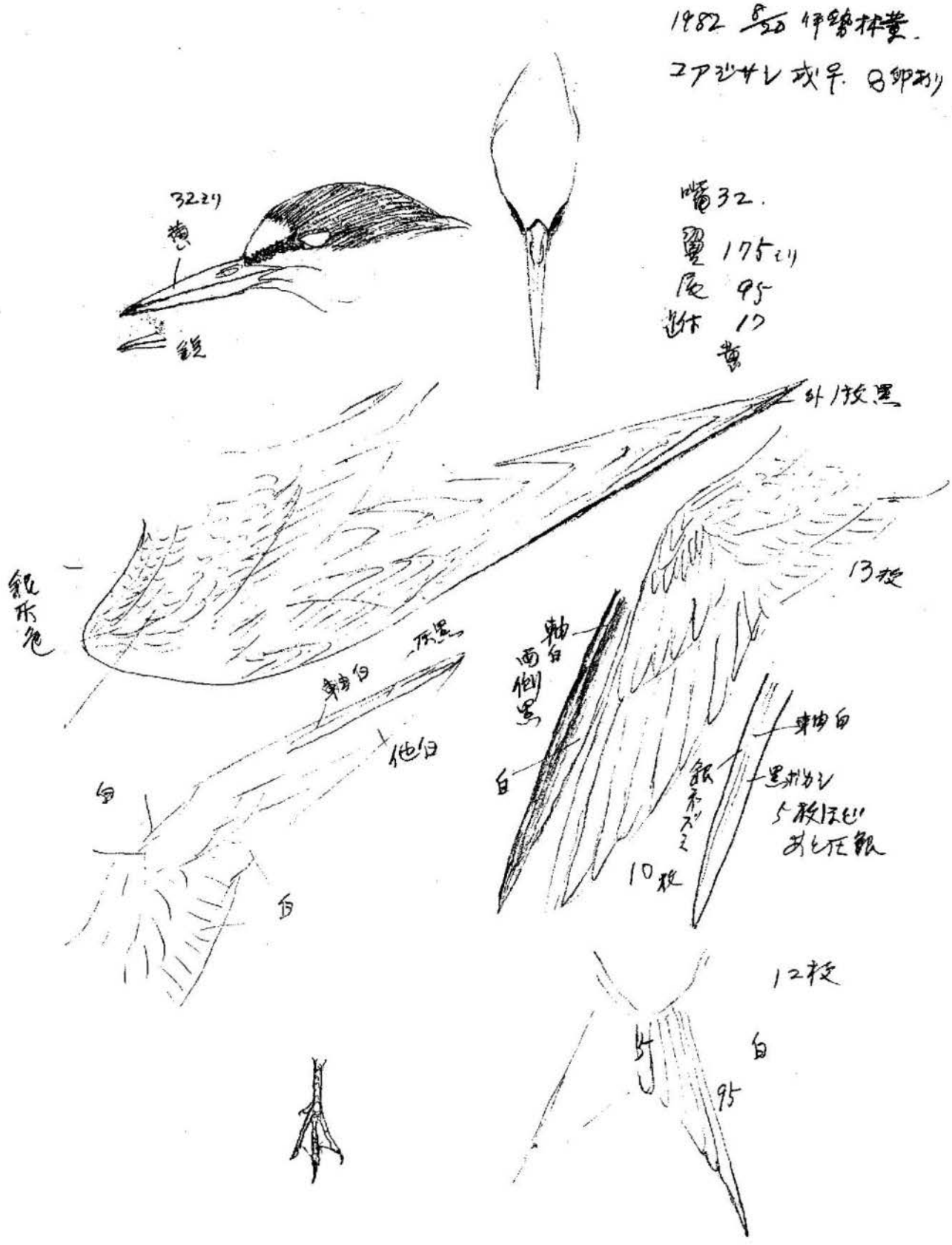



9×2.
外側数字中カミリ

強心臓同大
尾羽外側中の著しいちがい
かきめてとる

チュウジシギ：橋本太郎氏のスケッチブックより

1990 5/18 神戸 山林桂助氏へ寄贈


1982 8/20 伊豫林業.
コアジサシ 成♀ 8卵あり
32.2り
黄
銀
嘴32.
翼175.5
尾95
跗17
黄
外1枚黒
銀赤色
灰黒
軸白
他白
白
白
軸白
面側黒
白
13枚
軸白
銀ホッスミ
黒ガカシ
5枚ほど
あと白銀
10枚
12枚
白
95

# 渥美半島「越戸（おっと）大山ヘリコプター離着陸訓練場」問題について

愛知県　渥美自然の会　大羽康利

私の住む愛知県渥美半島が国内のタカ・小鳥類の渡りの重要な経路になっていることは大変良く知られています。半島の先端・伊良湖岬では秋の渡りのシーズン中に十数種類のタカ類、数十種類の小鳥類を観察することができます。

渡って行くタカ類の主なものにサシバ約10,000羽（「レッドデータあいち」では「地域個体群」とされており「渥美半島の山林を総合的に保全する必要がある」と記載されています）、ハチクマ約500羽、ツミ約1,000羽、ノスリ約500羽があり、他にもミサゴ、オオタカ、ハイタカ、ハヤブサ、チゴハヤブサ等は毎年観察されています。

小鳥類渡りは何十万羽・何百万羽という数に上っており、「1994年伊良湖岬の渡り鳥調査報告書」には、イワツバメ約1万羽、ヒヨドリ約30万羽、メジロ約2万羽、カワラヒワ約6万羽、マヒワ約3万羽等が記録されています。

伊良湖岬の西10～15kmの所に面積20平方km近い山塊があります。渥美半島の最高峰・越戸（おっと）大山はこの「渥美山塊」を代表する山です。

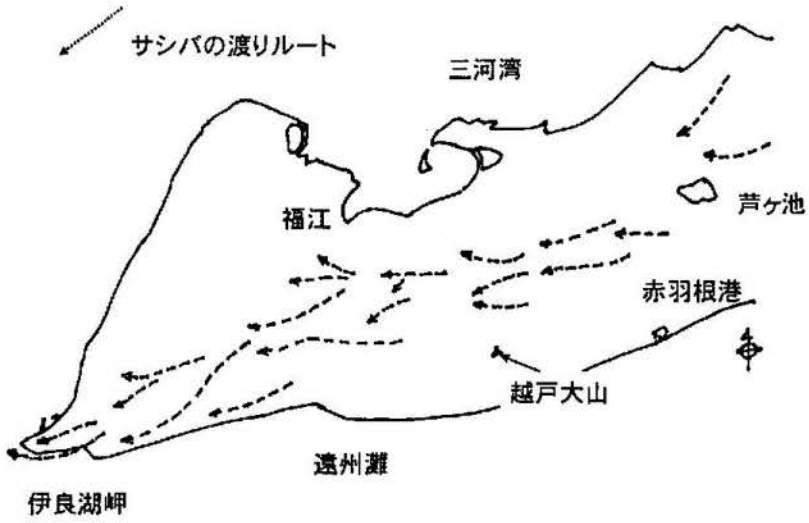
この山頂東側に「陸上自衛隊大山無線　中継所」があったのですが不要になったため、取り壊されて跡地に芝生が整備され、三重県の陸上自衛隊明野航空学校のヘリコプター離着陸訓練場として使う計画が立てられています。

越戸大山一帯は三河湾国定公園第3種特別地域に指定されており、中腹の神社一帯には第1種特別地域に指定された原生林も残されているなど愛知県有数の照葉樹林帯となっています。哺乳類もニホンリス、テン、アナグマ等12種類が確認されていると公表されています。

また、大山一帯は山岳会関係の各種出版物にも、手軽で良好なハイキングコースとして紹介されており、渥美郡内はもとより県内外の多くの方々が登山やレクリエーションに親しんでいる所であり、地域の保育園児や小中学生の遠足にも利用されているところです。

私たち「渥美自然の会」は訓練場計画が明らかになった03年8月から「継所跡地は陸上自衛隊ヘリコプター離発着訓練場とするのではなく、渥美にふさわしい森に回復できるよう、ご尽力下さることをお願い致します」との署名活動に取り組み、これまでに59団体、8200余名（他に「大山の訓練場化を認めない会」が地域に出来ていて、そこが1100名）からの署名が寄せられています。この中には日本野鳥の会本部や各支部からのものが十数団体あります。04年9月には「日本鳥学会総会」でも「生物多様性や自然環境保全に十分配慮した新たな検討を行うことが妥当であると考える。」とする決議が採択され、関係省庁に届けられています。

三重県支部の役員の方は03年6月に明野航空学校を訪れて下さり「大山が不要になったので、使い道はないかと全国に照会があったので、明野が手をあげた。」との貴重な情報をいただきました。大山の内閣府所有の土地は「通信施設を建てているので。」として旧赤羽根町から



購入したものです。「不要になれば国有財産法に則り、財務省に返還される」べきなのです。

04年始めに、地元越戸町の住民から7割を越える方からの反対署名が田原市長に提出され、また渥美町議会は反対決議を採択して、愛知県や関係省庁に送っています。

04年夏に行った「自然の会」などによる愛知県知事交渉では「名古屋防衛施設支局に対して、地元の理解を得るとともに、自然保護団体等と話し合うように働きかけております。」との言葉を知事より直接得ています。

防衛庁に対する公文書公開で渥美半島では「大山での離着陸訓練」だけでなく「伊良湖周辺での航法」も行われること、「その際の非常時には大山を利用する」なども明らかになり、単純な離着陸訓練に留まらないことが明らかになってきました。

ふる里の自然と生活を守るため、三重県の皆さんの一層のご協力をお願い致します。

サシバ

## 船橋三番瀬と谷津干潟へ

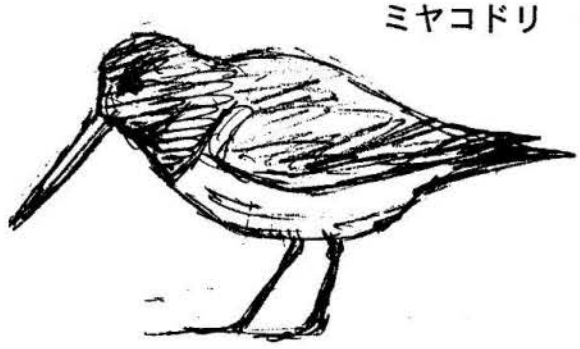
中村洋子　(松阪市)

2004年12月中旬、千葉県の知人宅訪問をかねて夜行日帰りで行って来ました。三番瀬海浜公園に到着、直ぐ浜へ行く、「ウワァー」シギ、シギ、シギ・・・　目の前に小さいシギが沢山居る。忙しそうにエサをついばんでいる。双眼鏡で観るとハマシギが断然多い、その中にシロチドリ、ミユビシギも少し混ざっている。ミヤコドリ（70±)、ダイゼン、ダイシャクシギ・・そのシギチの多さに圧倒された。左側でカモの写真を撮っている人が居るので聞きに行く「こんにちは、何がいるんですか？」「ビロードキンクロのオスとシノリガモのメス」どんなカモかわからないので、あわてて図鑑で調べる、以前北海道でこのカモを見たが忘れていた。ビロードキンクロは目と口が特徴だ。「今日は雲っているので見やすいが、晴れていたら逆光で見えにくい」と教えてもらう。

観察には晴れの日が向いていると思っていたが、時には曇り空の方が良い場合もあると分りました。もっとここに居たいが時間がないので次の谷津干潟へ向かう。ＪＲ南船橋駅から歩き20分ぐらいで着いた。「ええっーここが干潟」廻りは家と道路に囲まれているので、まるで大きな池みたいだ。私が想像していたのとは偉く違っていた。干潟にはセイタカシギが居た。観察路と道路（車がビューン、ビューン走っている）の境に木が植えてあるそこにコゲラ、シジュウガラ、メジロなどの小鳥も見られた。少し歩くと谷津干潟自然観察センター（月曜休み、食堂有）に着いた。とても立派な観察館だ。カモ、シギチも目の前でガラス越しに見られました。干潟を一周出来るように観察路がついているので時間があれば廻りたかった。

もう一度　春に一泊してゆっくり廻りたいと思いました。

ミヤコドリ



## 消えたコクガンに思う

小坂里香（度会郡度会町）

三重の海岸部やため池などでは今、越冬のため飛来したカモ類がたくさん羽を休めている。昨年秋、松阪市から明和町にかけての海岸に飛来したコクガンの一家も、そんなカモたちとともに、県内で一冬をすごしてくれることを願っていた。コクガンと言えば、環境庁のレッドデータでも絶滅危惧Ⅱ類（VU）に指定されている稀少な鳥類であり、国の天然記念物にもなっている。県内でも過去に観察例はあるが、その数は多いものではない。

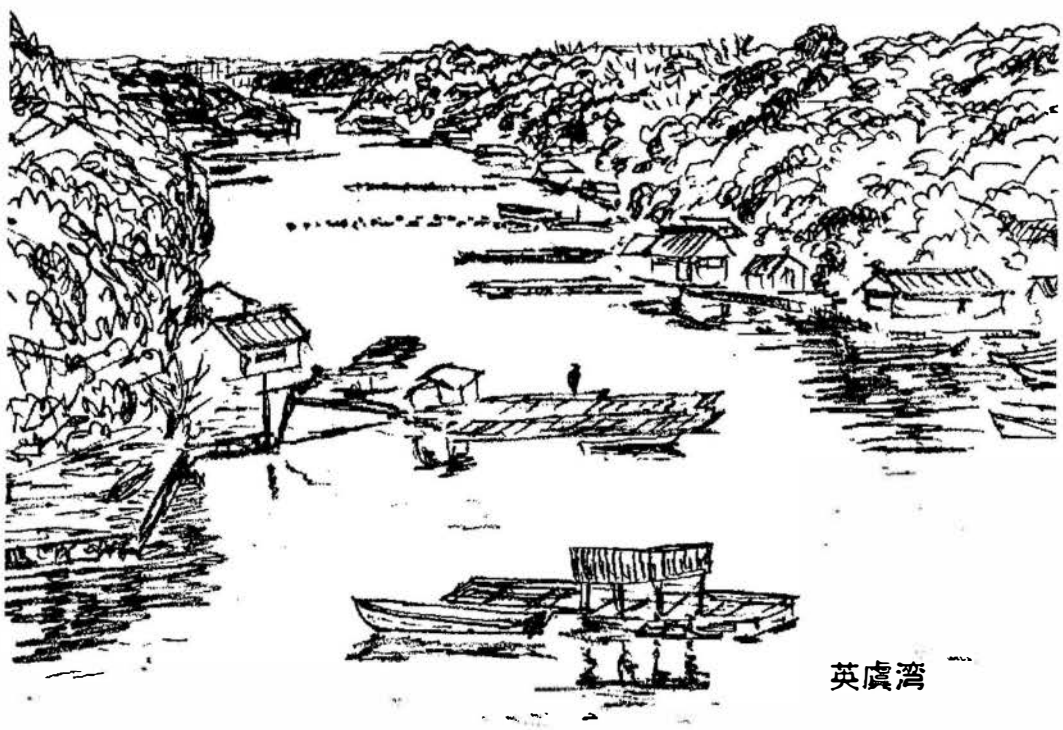
そのコクガンが、昨年11月に10羽もの家族群で飛来。初認日である13日、14日と続けて明和町川尻の海上、テトラポッド付近で観察された。続く15日は、狩猟の解禁日。コクガンが目撃されたのは、一部港湾を除き、狩猟可能な地域である。大丈夫だろうか、との思いが胸をよぎった。

そして当日午後、現地に行った知人と携帯電話で話してみると、コクガンは8羽しかいないという。「今日は朝からパンパンやっとったでな。おっ、あいつコクガンに石を投げとるぞ。」彼によれば、オレンジ色の救命胴衣を来たハンターらしき男が、コクガンの群れに投石しているというのだ。コクガンは飛び、その男はすぐ車に乗り彼と対向して行ったが、車内には猟銃も見えたという。

この話を聞いて、私は夜、支部事務局長にメールを入れ、電話で松阪県民局にコクガン保護を要請してもらった。しかし、県民局の対応は冷淡で、「研修を受けたハンターがコクガンを撃つはずがない、本当に見たのか」などと懐疑的だったという。　次の日の午後には、コクガンの数はさらに減少し、3羽となった。そして20日、別の知人によって、4羽無事でいるのが確認されたが、その後12月3日の観察を最後に、すべてのコクガンは付近の海岸から消えた。

ガン、ハクチョウ類は家族群で行動しており、その群れの絆は堅い。それが、狩猟解禁直後にこれほどその数を減じたということは、あきらかに不自然なことである。　しかし、射撃の現場を目撃したとか、死体が流れ着いていたとかの事実を確認しているわけではないので、誤射、密猟など狩猟との関係も云々できない。

バードウオッチャーとしては悲しいことだが、現在の日本では、狩猟は合法である。コクガンたちが、無事にどこかで越冬生活を送っていることを祈るとともに、渡り鳥の飛来地の多くが狩猟可能地域であることから、ハンターの方にルールを守る良識と良心が徹底していることを、心から願っている。



英虞湾

## 七人山の落ち羽拾いに参加して

森田えつ子（四日市市）

絶好の紅葉シーズンとあって、スカイラインの道路脇まで、すき間なく駐車の列が続いている。奥の駐車場にやっと置ける事ができ、そこより合い乗りさせていただいた。武平峠を少し滋賀県側に下った駐車場で集合しストレッチ体操で体をほぐす。今日のテーマの「落ち羽拾い」の参考資料のプリントと拾った羽を入れるビニール袋を頂いて、杉林の登山道を川口さんを先頭に16名が出発。うす暗い杉林に入って、まもなく昨秋、よく問題となった「スギヒラタケ」発見の声が耳に届いた。杉林を過ぎると、広葉樹林に入ったが、殆ど落葉し登山道は明るい。その中に最後の紅葉のカエデや黄色に染まったシロモジが華やかに彩っている。　他県からの登山グループとも何組か出会い賑やかな登山道に鳥の声は、耳に届かないが、目は充分に楽しむ事が出来た。

七人山は雨乞岳の手前の山で雑木に覆われた山だった。すっかり葉を落とした木々の間からは、釈迦岳が望めた。どこが頂上か分らない。頂上らしい所で昼食を摂り、その後皆が一枚のシートを囲んだ。拾った羽をシートに並べ勉強会が始まった。私は赤や黄色の落葉は拾ったが、鳥の羽は拾えなかった。　皆さんも拾えなかったらしい。すると、川口さんがリュックから羽をいろいろ出された。仲々拾えない事を見越して、ちゃんと用意してくださっていた。その貴重な一枚を手に触れて、じっくり眺めたが、一枚の羽だけでは、何の鳥かは、全く分らなかった。体のどこの羽かも分らなかったが、一枚の羽は左右対称でない事を知った。左右どちらの翼か、という事も羽を見て分かる事も知った。又フクロウの羽は消音の役目がある事を知って驚いた。これ迄の私は鳥の姿と声だけのウォッチングが精一杯だったが、奥の深いバードウォッチングに、一歩進むきっかけとなった。私のこれからの登山に、羽拾いも加わる事になり、さらにキョロキョロと山道を歩きそうだ。今日の七人山の羽拾いは美しい紅葉と、終始なごやかな雰囲気の中での楽しい勉強会でした。

## 三重県の野鳥の未報告記録　その１

多田 弘一（松阪市）

筆者は、三重県鳥類目録の発行を強く希望する者の一人である。過去の未記録例を掘りだす作業は大切であるが、それと同時に現在の記録、今後の記録を埋もれさせてはならない。　このシリーズでは、2002年に発足した三重のメモ鳥ML（MMMと略す）に報告された記録の中で、重要と思われるものを、会員諸氏の承諾を得て、今回は以下の６種を報告する。

1．コクガン Branta bernicla orientalis

a．１幼鳥：2002年12月10日、
一志郡三雲町五主、多田弘一
2003年01月中旬まで滞在した。

b．１成鳥：2003年02月10日、
一志郡香良洲町、多田弘一
同年02月28日、松井弘見氏が終認。

c．１成鳥：2004年02月24日、
津市高洲町　安濃川河口、山田孝夫
右翼に外傷を受け、飛翔不可能。同年07月19日、田中洋子氏が終認。

d．１成鳥：2004年07月26日、
松阪市高須町金剛川、小坂里香
この個体は、ｃと同一の可能性が強い。観察場所が近いこと、時期が移動期でないことによる。翼の負傷にもかかわらず、移動できたことは幸いである。
同年09月13日に、安藤宣郎氏が終認。

e．２成鳥８幼鳥：2004年11月13日、
度会郡明和町、多田弘一
この10羽は、初認の翌日、嶋田春幸・さつきの両氏により追認。11月17日と18日の朝、８羽に減じているのを、南　昭夫氏が確認。18日の午後、３羽

に減じたのを、南氏と多田は確認。
11月20日、岡　八智子氏が、4羽を確認。同日、松名瀬海岸で4羽を確認したとの報告あり（木原2004）。同年12月03日、多田は、4羽を終認。

参考文献
木原（2004）今年の松名瀬海岸レポート．自然誌だより、62号：P.7-8、三重自然史の会

2．マガン Anser albifrons frontalis
a．2成鳥7幼鳥：2003年10月08日、
一志郡三雲町五主、谷本勢津雄
初認の当日、多田弘一が追認。
約一週間の滞在。

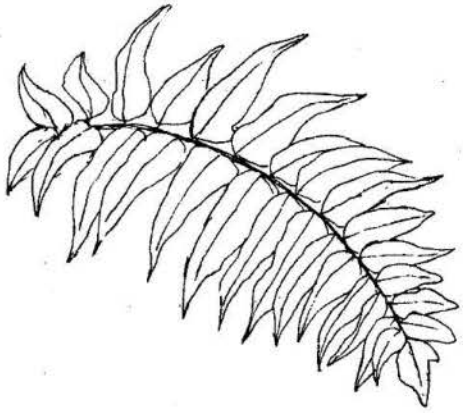
3．カリガネ Anser erythropus
a．1成鳥：2004年04月29日、
南牟婁郡　御浜町下市木、中井節二
頚部に損傷を示す羽の乱れがあったが、それほどのダメージは見られなかった。
御浜町下市木と志原の間を行き来していて、同年05月06日、中井節二氏が終認。

4．ヒシクイ Anser fabalis serrirostris
a．1幼鳥：2003年01月13日、
南牟婁郡　鵜殿村熊野川、中井節二
同年03月20日頃まで滞在。

5．コハクチョウ Cygnus columbianus
a．2幼鳥：2002年11月13日、
一志郡三雲町星合雲出川、山田孝夫
同日、多田弘一が追認。滞在は、初認当日だけ。
b．2成鳥1幼鳥：2002年11月28日、
四日市市伊坂ダム、川村　勇

6．アカツクシガモ Tadorna ferruginea
a．1羽：2003年11月28日、
松阪市高須町金剛川、小林達也・紘子
同日、川崎道夫氏と多田が追認。
滞在は　初認当日だけ。

なお、上記の各記録は、確認数：確認日、確認場所、確認者（敬称略）の順に記した。
今後、この要領で順次報告させていただくつもりである。
文末ではあるが、ご協力戴いているMMMの諸氏に厚く御礼申し上げる。



ヤブソテツ

## 野鳥情報

保護部

| 種　名 | 個体数 | 観察日 | 場　所　（通　称） | 備考・メモ | 報告者 |
|---|---|---|---|---|---|
| セイタカシギ | 4 | 2005/1/9 | 松阪市高須 | | 西村　泉 |
| カヤクグリ | 4 | 2005/1/22 | 玉城町　（的山公園） | | 西村　泉 |
| カワアイサ | 3 | 2005/1/22 | 櫛田川（佐奈川との合流点付近） | ♂:1、♀:2 | 西村　泉 |
| シロカモメ | 1 | 2005/1/24 | 伊勢市磯町　（外城田川） | | 西村　泉 |

## 支部活動の記録

事務局まとめ

● 支部活動の記録（2004年11月～2005年1月）

11/17　櫛田川整備の件で国交省櫛田川出張所を訪問
11/24　津県民局へ委託事業入札
11/28　木曽岬干拓フォーラム開催
12/3　支部報しろちどり第45号発行・発送作業
12/6　国交省津工事事務所を訪問（支部長）
12/7・9・10　密猟シンポの打ち合わせ・印刷作業
12/11～12　第12回野鳥密猟問題シンポジウムin三重開催
12/13　県・県警へ密猟シンポのお礼挨拶（支部長）
12/27　伊勢市・伊勢署・県民局へお礼挨拶

2005年

1/15 県委託ガン・カモ調査実施
1/18　防衛庁へ「渥美半島・大山におけるヘリコプターテスト飛行の中止」を要請
1/19　楠町へ「吉崎海岸の整備についてお願い」の文書を郵送
1/21　県と木曽岬干拓地について意見交換（保護部）
2/3　木曽岬干拓地整備事業環境影響評価準備書について記者会見

●これからの予定（2月～　）

2/13 部長会議
3　木曽岬干拓地整備事業アセス準備書について意見提出
3　委託事業報告まとめ作業
3/6 理事会

## お知らせ

☆ 探鳥会の集合場所について

探鳥会の集合場所が「車でしか行けない、公共交通機関利用者にとって不便」という声を聞いています。以前は、企画段階からなるべく集合場所を「駅」にし、便の良い探鳥地を選定していました。しかし、ここ数年は「駅」に限定せず、各地区の判断で企画しています。実際は公共交通利用者はほとんどいなく、県内の交通網も発達していないため、すべて「駅」に限定してしまうと、いろいろ無理が出てくるからです。公共交通機関を利用できない・しにくい探鳥会への参加については、担当者にご遠慮なくお申し出ください。

☆ 2005年度総会は、5月29日（日）を予定しています。後日、ご案内します。

経ヶ峰

## 保護部から

**野鳥情報について**

野鳥情報の収集について2004年10月の理事会で野鳥情報を今後保護部で扱うことが決まりました。記録に残したい鳥、珍しい鳥の情報を下記あてにお送り下さい。公表するかどうかは保護部で検討します。日時、場所、個体数、その種と判断できた基準（羽根の色、形など）を明らかにしてください。または画像を送っていただいても結構です。公表すべき情報は「しろちどり」誌上に掲載します。珍鳥に多数のバーダーが集まることを避けるため、一時的な飛来で通過するいわゆる珍鳥についてはその鳥が立ち去ってから掲載することを原則とします。公表できない情報も保護部で保存し、今後の保護活動等に役立てます。

なお電話での情報は記録が不確かになるため、受け付けません。郵送などの書面、あるいはＥ－メールでお願いします。

## プライバシー保護

**木曽岬干拓地の利用について**

２月１日に木曽岬干拓地整備事業アセスメント準備書が三重県から提出されました。３つがいのチュウヒの繁殖が確認され、これ以上のつがい数がこの３年間一度も見られたことがありません。これは干拓地全体で３つがいを養う餌しかないことを示しています。それにもかかわらず、三重愛知両県は干拓地のほぼ半分を運動広場などに改変しようとしています。その代償に干拓地の南端の約50haにチュウヒ繁殖保全区を作るとしていますが、この面積では１つがいの繁殖も保証できないことは火を見るよりあきらかです。

日本野鳥の会三重県支部と愛知県支部、名古屋鳥類調査会は共同で干拓地全体をチュウヒの保護と自然観察の場としての利用を提案しています。

**鳥羽市における風力発電計画について**

昨年秋鳥羽市で風力発電が計画されていることが明らかになりました。鳥羽市の朝熊山山麓（スカイライン入り口近く）に数基の風力発電機を設置しようとしていることが明らかになりました。しかし、事業主は改変面積が少ないことから、環境アセスメントはおろか、十分な環境調査をしようとはしていません。鳥羽市、伊勢市は伊良湖岬から飛来するサシバやハチクマ、やその他の渡り鳥のルートとして極めて重要です。海峡の通過で高度を落としたタカ類が朝熊山山麓の上昇気流を利用していることも考えられます。風力発電については世界各国で鳥類への影響が明らかになりつつあり、建設に慎重な態度をとる立場が増えています。三重県支部は十分な環境調査を行わずにこの計画を強行することに反対です。

（文責：平井）

御座黒森

【第１２回野鳥密猟問題シンポジウム報告】

# 第１２回野鳥密猟問題シンポジウムin三重

―― いまこそ、野の鳥は野に！――

第１２回野鳥密猟問題シンポジウムが、12月11日～12日の２日間の日程で、伊勢市伊勢青少年研修センターにおいて開催されました。シンポジウムには、地元警察や行政担当者、鳥獣保護員、密対連会員など約90名が参加しました。

まず、主催者である密対連が、野鳥の違法な販売や飼養の「通報から捜索まで」のフローチャートを示しながら、警察・行政・NPOそれぞれの役割について説明しました。

全国からの発表者は６名、主管である三重県支部は「三重県南勢地区における密猟パトロール」と題し、南勢地区の密猟パトロールグループが、半年にわたる密猟パトロールの結果と今後の防止策について発表しました。南勢地方のメジロは美声であるため、地元をはじめ県外からメジロの密猟者が出没する密猟多発地帯となっています。警察との合同パトロールと、会員だけの自主パトロールを実施した結果、ほぼ日常的に密猟が行なわれていることがわかりました。今後は警察にもっと合同パトロールの回数を増やすよう要請し、密猟防止キャンペーンを行いたいと希望を述べました。（詳細は別紙）

その他、「鷹匠と密猟問題」「小鳥店調査」などの報告がありました。

次に、環境省が野生鳥獣管理検討会報告書（案）の抜粋から、鳥獣の流通や愛玩飼養についての今後の方向性を示し、そのなかで、国内で違法に捕獲された野鳥が輸入鳥と偽って飼養しているケースが指摘されているので、輸入鳥に足輪などの個体識別措置も検討する必要があると説明されました。

現行法は、自治体の許可を受ければ国産の野鳥を１世帯にメジロ・ホオジロの２種のうち１羽が飼養可能で、外国産の野鳥なら何羽飼ってもよいという曖昧な法律であるため様々な現場で混乱が生じています。大手のホームセンターなどでも日本産と同種の野鳥が販売されており、たとえ輸入証明書がついていたとしても１羽１羽に対して公的に証明されたものではありません。

本部からは、2004年から実施している「バードウィーク全国一斉野鳥販売実態調査2004報告」のなかで、和鳥の販売割合は2000年に84％だったものが、2004年には18％に減少したと報告されました。これは、密猟や違法販売の取り締まりが強化されたうえに、鳥インフルエンザの影響で輸入鳥の全面停止が関係しているのではないかということでした。また、2004年５月には密対連とともに、業界団体に野鳥販売自粛の申し入れを行なったのも効を奏したといえます。さらに、悦ばしい事に、2005年９月１日より、厚生労働省からの通知では、鳥インフルエンザや西ナイル熱などの予防策として、動物の輸入に関して輸入届出制度が義務づけられることになり、外国産鳥類についても種類や数、

原産国、由来等が把握できるようになるそうです。

密猟・違法販売・違法飼養を摘発する決め手となるのは、バンダー（環境省から認定を受けた標識調査員）といわれる専門家による識別鑑定です。密猟や違法販売・違法飼養を根絶するには、バンダーの協力なしではあり得ないといっていいでしょう。

これまで、メジロとウグイスの識別が確立されていますが、今回、山階鳥類研究所研究者は、おもにオオタカの識別について講義されました。オオタカは９亜種に分かれるそうですが、日本産は「フジヤマエ」という学名がついているとおり日本の準固有亜種であり、亜種のなかで最も小さく、最も暗色で黒味が強いということでした。

このように、今後数多くの野鳥の識別が確立されていけば、密猟された国産野鳥が発見された場合、外国産かどうか即判別が可能というわけです。

また、獣医師による「猛禽類の輸入がもたらす数々の問題点」と題し流通に関しての講座もありました。

この後、参加者全体で密猟防止のための意見交換がありました。最後に、三重県支部南勢地区長の今村禎さんが決議文を読み上げ、参加者から満場の拍手で決議されました。

シンポジウムのほかに、早朝探鳥会や懇親会で参加者同志の交流を深めました。

（文責：西村）

## 三重県南勢地区における密猟パトロール

林　淳子（伊勢市）

日本野鳥の会三重県支部では10年程前から、伊勢市と南勢町にまたがる山林で、毎年野鳥の密猟パトロールをしており、2001年からは伊勢警察署生活安全課、三重県南勢県民局生活環境部、鳥獣保護員と合同で実施してきました。その結果、毎年２，３箇所でメジロやオオルリの密猟現場に出会い、検挙、指導してきたが、パトロール回数が少ないため密猟は後を絶たない状況でした。そこで、今年は伊勢市で野鳥密猟問題シンポジウムが開催されることになったので、密猟の実態を広く把握するため、合同パトロールに続き、2004年６月から10月にかけて毎月２回、自主的な密猟パトロールを実施しました。

＜自主密猟パトロールの方法＞

伊勢市と南勢町にまたがる鍛冶屋峠、床の峠、剣峠を含む山林内約70kmを朝６時から４～５時間かけて、過去の密猟現場に「密猟１１０番」のポスターをかけながらパトロールしました。

＜自主密猟パトロールの結果＞

６月：メジロの密猟１件。

７月：密猟なし。カスミ網の痕跡発見。ポスターが剥がされていた。

８月：メジロとオオルリの密猟２件。ポスターが引きちぎられていた。

９月：オオルリの密猟２件。ポスターが引きちぎられ、鳥獣保護区の看板が谷側に投げ捨てられていた。周囲の木に打たれていた、とりもち棒を乗せる釘を除去した。

１０月：密猟なし。ポスターを掛けたまま、木が切り倒されていた。

密猟現場に出会った場合は、おとり及び捕獲した鳥の放鳥、とりもち棒の廃棄、今後、密猟しないことなどを要請し受け入れられた。しかし密猟者が現場から逃走した場合は、鳥、とりもち棒、カセットラジオなどを拾得物として伊勢警察署に届け出た。

「密猟１１０番」のポスターは鍛冶屋峠　６か所、床の峠　８か所、剣峠　２か所の合計１６か所に掛けた。

＜今後の対応＞

パトロールを繰り返しても上記の三つの峠周辺は密猟の無法地帯となっているので、密猟者に対して「ここでは密猟はやれない」と思わせる必要がある。そのため、次のような対応をしたいと考えている。

(1) 伊勢警察署に対しては、合同パトロールの回数を増やしてもらうように要請する。

(2) 三重県南勢県民局に対しては、密猟撲滅のために野鳥の会にどのような協力や支援をしていただけるか、検討を依頼する。

(3) 日本野鳥の会三重県支部としては、「密猟撲滅キャンペーン」を行い、自主密猟パトロールの規模を拡大したい。

※ 密猟パトロールにご協力いただけるかたは、事務局（090-1566-6010）までご連絡ください。なお、密猟や違法飼育に関する情報提供もよろしくお願いします。

●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

## 木曽岬干拓フォーラムの報告

村田芳雄

2004年11月28日（日）、長島町公民館で4回目の木曽岬干拓フォーラムを開催しました。まず、保護部の近藤さんから、昨年の木曽岬干拓地でのチュウヒの繁殖状況が報告されました。つぎに、（財）日本野鳥の会の東さんからは、自然の葦原を改変して公園化し、観察のための人工池を造った結果、鳥があまり寄り付かなくなり、池の水も濁ってきたというお話がありました。県総合企画局からは、木曽岬干拓地の開発は予定通りに行い、チュウヒの保護区を南の一画に設けるという説明がありました。討論に入り、干拓地は野鳥のサンクチュアリにすべきである、海に戻すべきだ、保護区は十分にとれ、等の多くの意見が出され活発な討論となりました。参加者は50名前後でした。

## 探鳥会報告　2004年10月～12月

● 木曽岬干拓地探鳥会

（共催　愛知県野鳥保護連絡協議会）

2004年10月24日（日）

三重県木曽岬干拓地／愛知県鍋田干拓地

近藤義孝　村田芳雄　　参加者18名

カイツブリ（10）、カワウ（200）、ゴイサギ（5）、ダイサギ（7）、コサギ（6）、アオサギ（3）、カルガモ（14）、コガモ（30）、キンクロハジロ（3）、ミサゴ（8）、トビ（2）、ノスリ（4）、チュウヒ（2）、ハヤブサ（1）、チョウゲンボウ（1）、キジ（2）、バン（1）、ケリ（7）、タゲリ（19）、クサシギ（2）、イソシギ（3）、ユリカモメ（2）、キジバト（15）、カワセミ（4）、ヒバリ（10）、ショウドウツバメ（6）、ハクセキレイ（15）、ヒヨドリ（20）、モズ（5）、ジョウビタキ（1）、ホオジロ（3）、カワラヒワ（15）、スズメ（100）、ムクドリ（100）、ハシボソガラス（200）、ハシブトガラス（50）、ドバト（100）

37種

ミサゴ・トビ・ノスリ・チュウヒ・ハヤブサ・チョウゲンボウと猛禽類のオンパレード。干拓地を猛禽類の楽園として残したい。

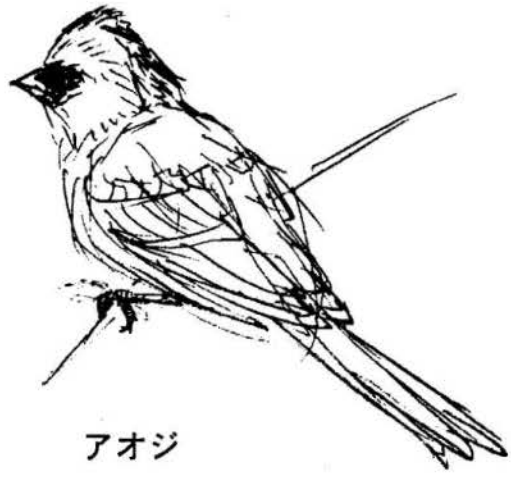
● 五十鈴川定例探鳥会

2004年11月4日（木）9:00-11:30

伊勢市今在家

西村泉　山田昭子　　参加者10名（会員10名）

ミサゴ（1）、ハイタカ、キジバト、コゲラ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ジョウビタキ、ウグイス、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、アオジ、ハシブトガラス　　16種



アオジ

メジロ、エナガなどの混群に出会い、コゲラが逆さになってエサさがしのための穴をほっている様子をじっくり観察できた。

● 紅葉の「七人山」で落ち羽拾い

2004年11月7日(日) 9:00-16:00

鈴鹿山系「七人山(1073 m)」

川口久美　岡八智子　参加者16名(会員15名、会員外1名)

オオタカ(1)、ハイタカ(1)、ノスリ(1)、コゲラ、ヒヨドリ、カワガラス(1)、エナガ、ヒガラ、ヤマガラ、メジロ、カケス、ハシボソガラス　12種(声だけのものを含む。)

紅葉のなかのハイキングをかねて「拾った羽からその鳥の種類を想像する」というテーマで勉強しました。参加の方のなかから『鳥の羽に興味を持つようになった』という人がひとりでも出れば担当者として嬉しいです。

● 熊野川河口周辺探鳥会

(共催　くまのの自然をかんがえる会)

2004年11月14日(日)　鵜殿村　熊野川河口

中井節二　参加者18名

カワウ、コサギ、アオサギ、オシドリ、マガモ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、ミサゴ、トビ、ハヤブサ、ユリカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ウミネコ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ビンズイ、タヒバリ、ヒヨドリ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、ウグイス、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト　31種

急に寒くなったこの日、遠くは四日市から来てくれた人もいました。当地では珍しい、ユリカモメが見られました。

● 海蔵川探鳥会

2004年11月16日(火) 9:40-12:00

四日市市西坂部町

尾畑玲子　高　和義　　参加者7名(会員4人、会員外3人)

カイツブリ(2)、カルガモ(22)、オオタカ(2)、チョウゲンボウ(2)、バン(1)、イソシギ(1)、キジバト(8)、カワセミ(1)、ヒバリ(1)、ハクセキレイ(2)、セグロセキレイ(1)、ヒヨドリ(3)、モズ(1)、ジョウビタキ(1)、ホオジロ(2)、アオジ(1)、スズメ(10)、ムクドリ(2)、ハシボソガラス(5)、ハシブトガラス(1)、ドバト(10)　21種

チョウゲンボウの狩りを見た。ホバリングの後畑地にダイビング。飛び立った後姿はエサをしっかりとらえていた。オオタカは♂と幼鳥が出現。このあたりでは、単発的にタカが現れるがこの日は海蔵川探鳥会始まって以来の猛禽類ショウに、参加者全員興奮気味であった。

● 五十鈴川公園探鳥会(身近な自然を体験する県民デー　参加)

2004年11月20日(土) 9:00-11:30

伊勢市今在家町五十鈴川公園付近

小坂里香　中村みつ子　　参加者22名(会員19人、会員外3人)

カイツブリ(2)、コサギ(1)、アオサギ(1)、イカルチドリ(2)、イソシギ(1)、キジバト、カワセミ(1♂)、コゲラ(2)、キセキレイ(2)、ハクセキレイ(3+)、セグロセキレイ(5)、ヒヨドリ、モズ(1♂)、カワガラス(1)、ジョウビタキ(1♂)、イソヒヨドリ(1♀)、エナガ、ヤマガラ(3+)、シジュウカラ(3+)、メジロ、ホオジロ(1)、アオジ(1+)、カワラヒワ(3+)、イカル(3+)、スズメ、ハシボソガラス(少)、ハシブトガラス(多)、ドバト　29種

天候に恵まれ、新入会員の方などの参加もあってまずまずの結果となった。テーマの冬鳥の数は少なかったが、初心者向きに夏鳥、冬鳥、旅鳥などの解説に力を入れた。

● 漁港の鳥を見る探鳥会

2004年11月21日(日) 9:30-12:00

志摩市浜島町浜島

中村みつ子　　山田昭子　　参加者7名(会員6人、会員外1人)

カシラダカ

カワウ、コサギ、アオサギ、ミサゴ(1)、トビ(30)、ユリカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ウミネコ、ヒヨドリ、ジョウビタキ(1)、イソヒヨドリ(2)、ハシブトガラス、ドバト　14種

風もなく、天候に恵まれ、海辺の観察会には適した一日だった。カモメ類の識別をじっくりすることが出来、又港という環境の中で人とかかわりあって共生生活している様子等観察することが出来た。

● 県民の森探鳥会

2004年11月27日（土）9:30-12:10

三重郡菰野町千種

矢田栄史　　辻　秀之　参加者15名（会員11人、会員外4人）

トビ(1)、ハイタカ(1)、コゲラ、セグロセキレイ、ビンズイ、ヒヨドリ、モズ、ルリビタキ(4)、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、エナガ、コガラ、ヤマガラ、メジロ、ミヤマホオジロ、カワラヒワ、カラス(SP)　　19種

「野鳥の森」周辺にはシカのフィールドサインが多い。リョウブは幹の皮がはがれていたり、タブの木には9本もの角で削ったあとがあった。一番長いものは約60ｃｍもある。

● 服部川河川敷探鳥会

2004年11月28日（日）10:00-12:00

伊賀市服部町

前澤昭彦　塗矢尋一　参加者8名（会員7人、会員外1人）

カワウ（1）、ダイサギ（1）、トビ（1）、ハイタカ（幼3、成1）、ノスリ（1）、キジバト（2）、ハクセキレイ（1）、セグロセキレイ（1）、ヒヨドリ（1）、モズ（3）、ウグイス（1）、ホオジロ（1）、カシラダカ（2）、カワラヒワ（12）、シメ（4）、ハシブトガラス（1）　16種

ハイタカが4羽出た。1羽は成鳥で早く空に上がり飛び立った時は大きく肉眼で見た。次にノスリがゆっくりと観察できた。

● 木曽岬干拓地探鳥会

（共催　愛知県野鳥保護連絡協議会）

2004年11月28日(日)9:00-11:00

三重県木曽岬干拓地／愛知県鍋田干拓地

近藤義孝　村田芳雄　　参加者31名

カイツブリ（2）、カワウ（10）、ダイサギ（3）、コサギ（1）、アオサギ（3）、マガモ（2）、カルガモ（30）、コガモ（40）、オカヨシガモ（9）、オナガガモ（4）、ホシハジロ（10）、ミサゴ（4）、トビ（2）、ハイタカ（1）、ノスリ（3）、チュウヒ（2）、ハヤブサ（1）、キジ（2）、ケリ（1）、タゲリ（4）、クサシギ（2）、イソシギ（3）、ユリカモメ（13）、キジバト（5）、カワセミ（1）、ヒバリ（2）、ハクセキレイ（3）、セグロセキレイ（1）、タヒバリ（2）、ヒヨドリ（10）、モズ（5）、ツグミ（15）、セッカ（1）、ジョウビタキ（2）、メジロ（1）、ホオジロ（6）、アオジ（1）、オオジュリン（8）、カワラヒワ（100）、スズメ（50）、ムクドリ（30）、ハシボソガラス（150）、ハシブトガラス（40）、ドバト（50）　44種

県はチュウヒの保護区を57haという極めて狭い場所に設定しているので、これを拡大するように声を大にしていかなければならないと思います。

● 五十鈴川公園探鳥会

2004年12月2日（木）9:00-12:00

伊勢市今在家五十鈴川公園付近

中村みつ子　　参加者　7名（会員7人）

イソシギ（1）、キジバト（1）、カワセミ（2）、コゲラ（4）、キセキレイ（1）、セグロセキレイ（2）、ヒヨドリ（24）、カワガラス（2）、ルリビタキ（3）、ジョウビタキ（1）、エナガ（群）、ヤマガラ（10）、シジュウカラ（10）、メジロ（7）、アオジ（3）、カワラヒワ（1）、シメ（1）、スズメ（6）、ハシブトガラス（6）　19種

五十鈴川周辺の冬鳥としてシメ、ジョウビタキ、声のみだったがルリビタキ等を紅葉と共に楽しむことが出来た。神宮林は保護区だが猟期であるのでハンターの山への出入りがあった。

● 穴川探鳥会

2004年12月5日（木）9:00-11:00

志摩市磯部町穴川

今村　禎　中村みつ子　　参加者12名（会員11人、会員外1人）

カイツブリ（1）、カワウ、ダイサギ（1）、コサギ（3）、アオサギ（7）、マガモ、カルガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、アメリカヒドリ（1）、オナガガモ、ミサゴ（4）、トビ（5）、ハイタカ（1）、チュウヒ（2）、イソシギ（2）、カワセミ（1）、ヒバリ（4）、ハクセキレイ、セグロセキレイ（1）、タヒバリ、ヒヨドリ、ジョウビタキ（2）、ウグイス（2）、メジロ、ホオジロ、アオジ（1）、カワラヒワ（10+）、スズメ、ムクドリ（7+）（個体数記載なきは多数観察できた）　30種

冬の台風一過、強風の中寒いのを覚悟で出かけてみれば、汗を拭きながらの探鳥会。昨年に続きツグミのでない探鳥会でしたが、チュウヒ、ミサゴ、ハイタカは観察でき、カモ類も数は少なかったがアメリカヒドリが観られまずまずの探鳥会でした。終了後、キャンプ場にて交流会

を開き焼き牡蠣そして、中村さんお手製のブタ汁にと全員満足の一日でした。

● 安濃ダム探鳥会

2004年12月23日（木）10:00-12:00

安芸郡芸濃町安濃ダム（錫杖湖）、横山池

西浦克征　平井正志　参加者　35名（会員28人、会員外7人）

カイツブリ、カワウ、アオサギ、オシドリ、マガモ、コガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、キンクロハジロ、ホシハジロ、オオバン、アオゲラ、コゲラ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ルリビタキ、ツグミ、エナガ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、カワラヒワ、ムクドリ、ハシボソガラス、ドバト　27種

平地は晴れているのにダム湖付近は小雨模様のためか、小鳥の姿は少なかったが、オシドリの群やアオゲラがハゼの実を啄ばむ様子をじっくり観察することが出来た。横山池では、日の光も見えて水辺の鳥とカラ類など林の鳥を同時に身近で見ることが出来た。

● 木曽岬干拓地探鳥会

（共催　愛知県野鳥保護連絡協議会）

2004年12月26日（日）

三重県木曽岬干拓地／愛知県鍋田干拓地

近藤義孝　村田芳雄　　参加者25名

カイツブリ（8）、カンムリカイツブリ（1）、カワウ（4000）、ダイサギ（3）、コサギ（2）、アオサギ（6）、マガモ（10）、カルガモ（51）、コガモ（110）、オカヨシガモ（10）、ヒドリガモ（11）、オナガガモ（1）、ハシビロガモ（15）、ホシハジロ（4）、キンクロハジロ（2）、ミサゴ（7）、トビ（2）、ノスリ（2）、チュウヒ（2）、コチョウゲンボウ（1）、チョウゲンボウ（1）、ケリ（3）、タゲリ（5）、クサシギ（2）、イソシギ（3）、ユリカモメ（4）、セグロカモメ（1）、カモメ（3）、キジバト（20）、カワセミ（3）、ヒバリ（10）、ハクセキレイ（10）、タヒバリ（10）、ヒヨドリ（10）、モズ（5）、ジョウビタキ（5）、ツグミ（20）、ウグイス（1）、セッカ（1）、シジュウカラ（3）、ホオジロ（20）、オオジュリン（10）、カワラヒワ（5）、スズメ（300）、ムクドリ（20）、ハシボソガラス（100）、ハシブトガラス（30）、ドバト（50）　48種

親子での参加が何組かあった。

1週間前のねぐら調査ではたくさん見られたチュウヒはどこに行っているのだろうか。

編集後記

地球カレンダーと言うのがあるが、これは46億年の地球の歴史を1年365日に置き換えたものである。原始生命誕生が2月25日、鳥類の出現が12月19日、ホモサピエンス（新人）誕生は31日23時37分となる。産業革命は、と言えばわずか2秒前で、瞬きするほどの時間に46億年で蓄積されたエネルギーや自然を食い荒らしているのである。アイヌの人達は自然のその年の利子の一部だけで衣食住をまかなって、現金には手をつけない生活をしてきたそうである。半年ほどの長旅に出て帰ってみると住む家が無くなっていた、などと言うことが無いように、帰り支度の冬鳥を見ながら少しでも多くの人に、自然について考えていただきたいものである。

しろちどり　46号

2005年3月15日発行

題字：　濱田　稔

表紙絵：　橋本太郎

カット：　平井正志

編集：平井正志　〒514-2325

安芸郡安濃町田端上野910-49

発行所：日本野鳥の会三重県支部

杉浦邦彦方

〒516-0026　伊勢市宇治浦田2丁目9-4

印刷：伊藤印刷株式会社